處分ニ付テハ刑訴法第百四十四條ニ於テ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ト規定シ區裁判所檢事カ區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ニ關シテ爲ス豫審類似處分ニ付テハ同第百四十六條ニ依リ、司法警察官カ大審院ノ特別權限ニ屬セサル重罪又ハ輕罪ニ關シテ爲ス豫審類似處分ニ付テハ同第百四十七條ニ依リ尚檢事又ハ司法警察官カ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ關シテ爲ス處分ニ就テハ同第三百十一條ニ依リ共ニ要スルニ同第百四十四條ヲ準用ス可キ旨ヲ規定シタリ或ハ謂フ凡テ豫審類似處分ハ犯行ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲サヽル場合ニ於テモ之ヲ爲コトヲ得ヘシ刑訴法第百四十四條ニ犯所ニ臨檢シト規定シタルハ單ニ爲スコトヲ得ヘキ豫審類似處分ノ一種ヲ例示シタルニ過キスト而シテ其根據トスル所ハ刑訴法第百四十八條第二項ニ依レハ地方裁判所檢事カ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ト共ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時間內ニ之ヲ訊問シ勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可キ旨ヲ規定ス此種ノ場合ニ於テ地方裁判所檢事ハ自身犯所ニ臨檢スルヲ要セサルコ

ト明白ナルニ拘ラス尚強制處分ナル被告人ノ訊問又ハ其勾留ノ處分ヲ爲サヽルヲ得スシテ若シ然ラハ少クトモ此種ノ場合ニ於テハ犯所臨檢ノ行爲ヲ要スルコトナクシテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト謂ハサルヲ得スシテ若シ此種ノ場合ニ於ケル豫審類似處分ニ付犯所臨檢ノ行爲アルヲ必要トセサルモノトセハ其場合ノ如何ヲ區別セス凡テ豫審類似處分ヲ爲スニ付テハ犯所ニ臨檢スルノ必要ナシト論斷スルヲ得ヘク又立法論トシテモ特ニ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲スコトヲ以テ豫審類似處分ノ開始條件ト爲ス可キ特別ノ必要アルヲ見スト云フニ在リテ大審院モ三十一年頃迄ハ此見解ヲ採用シタリシト雖按スルニ第百四十八條第二項ノ訊問ハ拘留ノ處分カ豫審類似處分ノ一作用ナルコトハ明白ナリト雖モ此場合ニ於テ果シテ犯所ニ臨檢シタル行爲ナキヤ否ヤニ就テハ尚懷疑ノ餘地ナキニ非ス法文ノ明示スル所ニ依レハ地方裁判所檢事ハ其事件ニ付キ犯所ニ臨檢シタルコトナシト雖モ區裁判所檢事又ハ司法警察官カ前ニ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲シタル場合ナルヲ以テ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲シタル檢事又ハ司法警察官ヨリ被告人ヲ受取リ

タル地方裁判所檢事カ之ヲ訊問シ又ハ拘留スルトスルモ何等不可ナルコトナカルヘシ要スルニ此場合ニ於ケル地方裁判所檢事ノ訊問又ハ拘留ハ區裁判所檢事又ハ司法警察官カ有效ニ爲シタル豫審類似處分ノ一種ノ延長タルニ過キス又刑訴法ハ第百四十二條ニ於テ豫審判事ノ現行犯ニ關スル特別處分ヲ規定ス此處分ハ純タル豫審處分ニシテ豫審類似處分ノ如ク例外的搜査處分ニアラサルニ拘ラス尙犯所ノ臨檢ヲ處分開始ノ要件トス然ラハ寧ロ其處分ノ權限及ヒ處分着手ノ權限ヲ狹隘ニス可キ必要アル豫審類似處分ノ開始ニ付キ却テ犯所ノ臨檢ヲ不必要トス可キ理由アルコトナシ況ヤ豫審類似處分ハ例外ノ處分ナリ例外處分ノ範圍ハ嚴格ニ之ヲ決定ス可キコトハ事物一般ノ大則ナルヲ以テ既ニ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ト規定シタル以上ハ特ニ顯著ナル理由ナキ限リハ犯所ノ臨檢ヲ以テ單ニ豫審類似處分ノ一例示ナリト解スルコト妥當ナラサルニ於テオヤ大審院モ三十一年三月ニ於テ刑事聯合部ノ判決ニ依リ從來ノ判例ヲ改變シテ遂ニ犯所ノ臨檢ヲ以テ豫審類似處分開始ノ一要件ト爲シ犯所ニ臨檢セスシテ爲シタル豫審類似處分ハ要スルニ無效ナリト斷定スルニ至レリ而シテ臨檢トハ豫審類似處分ノ開始ノ要件トシテハ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲スコトヲ云ヒ檢證ヲ爲シタルトキハ第百三條ニ依リ檢證調書ヲ作製セサル可カラサルヲ以テ或ハ豫審類似處分ハ檢證調書ノ作製後ニアラサレハ之ヲ開始スルコトヲ得サルカ如シト雖モ實際上其然ル可カラサルハ言ヲ俟タサル所ニシテ犯所ニ臨ミ檢證シタル場合ニ於テハ未タ檢證調書ヲ作製スルニ至ラスト雖モ尙ホ豫審類似處分ヲ開始スルコトヲ得可シ

第二　檢事カ豫審類似處分ニ着手シ得可キ條件

一　大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ就テハ檢事ハソノ地方裁判所檢事タルト區裁判所檢事タルトヲ區別セス凡テ此種ノ罪即チ皇室ニ對スル重罪、國事ニ關スル重罪又ハ皇族ノ犯シタル禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ノ現行犯ニシテ急速ノ處分ヲ要スルモノアルコトヲ知了シタル場合ニ於テハ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲シタル後豫審類似處分ニ着手スルコトヲ得ヘシ

二　其他ノ罪ニ付テハ

甲　地方裁判所檢事ハ左ノ二樣ノ場合ニ於テ豫審類似處分ニ着手スルコトヲ得ヘシ

イ、地方裁判所檢事カ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯ニシテ急速ノ處分ヲ必要トスルモノヲ知了シタル場合ニ於テ豫審判事ニ對シ犯所ニ臨檢ヲ爲ス可キ旨ヲ通知シテ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲シタルトキ

ロ、地方裁判所檢事カ區裁判所檢事若クハ司法警察官ヨリ其豫審類似處分ヲ爲シタル事件ノ被告人ヲ受取リタルトキ（第百四十八條第二項）　刑訴訟第百八十四條第二項ニ規定スル處分カ豫審類似處分ナリヤ又ハ特別處分ナリヤニ付テハ學者間ニ多少ノ異論アリト雖モ豫審類似處分ナリト謂ハサル可ラサルコトハ既ニ上述シタル所ニシテ此種ノ場合ニ於ケル處分ハ寧ロ區裁判所檢事若クハ司法警察官ノ爲シタル豫審類似處分ノ延長ナリト認ム可キモノナルヲ以テ從テ着手ノ條件トシテモ別ニ犯所臨檢ノ行爲又ハ急速處分ノ必要ナル事實ナルコト等ヲ必要トセス或ハ此種ノ場合ニ於テハ被告人ノ訊問及ヒ勾留ノ處分ノミニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト論スル者ナキニアラサルノミナラス實際ニ於テモ上述ノ二個ノ處分以外ノ處分ヲ爲ス可キ特別ノ必要ナキモノヽ如シ然レトモ既ニ其處分ヲ豫審類似處分ナリト爲ス以上ハ理論上被告人ノ訊問及ヒ其勾留以外ノ處分ヲモ爲スコトヲ得ヘキモノト爲スヲ可トス況ヤ第百四十八條第二項ハ二十四時間内ニ訊問シト云ヒ又勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲ爲ス可シト云ヒ其訊問ト云ヒ勾留ト云フハ要スルニ時間ノ制限ヲ付シ又ハ被告人ノ身柄ニ關スル取扱ヲ規定スル趣旨ナル可クシテ其爲シ得ヘキ處分ノ種類ヲ限定シタル趣旨ナリトハ解スルコトヲ得サルニ於テオヤ

乙　區裁判所檢事ハ

イ　重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナルトキハ地方裁判所檢事ニ付キ第一ニ述ヘタル場合ト同一ノ場合ニ於テ豫審類似處分ニ着手スルコトヲ得ヘシ（第百四十四條）

ロ、區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナルトキハ左ノ二樣ノ場合ニ於テ豫審

類似處分ニ着手スルコトヲ得ヘシ

天　區裁判所檢事カ區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯ニシテ急速

ノ處分ヲ必要トスルモノアルコトヲ知了シタル場合ニ於テ犯所ニ臨

ミ檢證ヲ爲シタルトキ（第百四十六條）此場合ニ於テハ地方裁判所檢事ニ異

リ豫審判事ニ對シ犯所ニ臨檢ス可キ旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要セス或

ハ刑訴法カ第百四十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得ト規定ス

ルヲ以テ此場合ニ於テモ亦第百四十四條ニ於ケル如ク豫審判事ニ對

スル犯所臨檢ノ通知ヲ必要トスルモノヽ如シト雖モ區裁判所ノ管轄

ニ屬スル罪ニ付テハ第五十三條ニ依リ通常豫審ヲ求ムルコトヲ得サ

ルヲ以テ性質上豫審判事ニ對スル犯所臨檢ノ通知ヲ要セサルコト明

白ナル可キナリ

地　區裁判所檢事カ司法警察官ヨリ其豫審類似處分ヲ爲シタル事件ノ

被告人ヲ受取リタルトキ　司法警察官カ豫審類似處分ヲ爲シタルト

キ第百四十七條第二項ニ依リ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄

裁判所ノ檢事ニ送致ス可キモノトス故ニ時ニ之ヲ區裁判所檢事ニ送

致セサル可カラサル場合アリ得ヘシ而シテ此場合ニ於テ送致ヲ受ケ

タル區裁判所檢事カ更ニ豫審類似處分ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ否ヤニ

付テハ刑訴法上特別ノ規定ナシ然レトモ上述ノ如ク予ハ第百四十八

條第二項ノ處分ハ區裁判所檢事又ハ司法警察官ノ爲シタル豫審類似

處分ノ延長ナリトシ尚ホ法文ノ明示スル被告人ノ訊問又ハ其勾留以

外ノ處分ニモ關スルモノト爲シ此種ノ處分ハ檢事カ公訴提起權ヲ行

用スルニ付キ必須ノ處分ニシテ必スシモ第百四十八條ノ明文ヲ俟チ

テ後然ルニアラストノ斷信スルヲ以テ從フテ第百四十八條ノ如キ明文

スラ規定セラレサル區裁判所檢事ニ就テモ尚ホ司法警察官ヨリ其豫

審類似處分ヲ爲シタル事件ノ被告人ヲ受取リタルトキハ何等特別ノ

事由アルヲ要セスシテ各種ノ豫審類似處分ヲ爲シ得ヘキモノト論決

ス此論決ハ現時ノ刑訴法學者ノ大體ニ於テ承認スル所ニ係ルト雖モ

只或ハ第百四十八條ノ處分ト共ニ此場合ニ於ケル處分モ單ニ被告人ノ訊問及ヒ其勾留ノ二種ノ豫審類似處分ノミニ關スト爲ス者ナキニアラス

第三　司法警察官カ豫審類似處分ニ着手シ得可キ條件

司法警察官ハ重罪又ハ輕罪ノ現行犯ニシテ急速ノ處分ヲ必要トスルモノアルコトヲ知了シタル場合ニ於テ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲シタル後豫審類似處分ニ着手スルコトヲ得ヘシ（第百四十七條、第百四十一條）而シテ苟モ重罪ナリトセハソノ大審院ノ特別權限ニ屬スルモノナルト地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナルト又ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナルトヲ區別セス或ハ此場合ニ於テモ豫審判事ニ對スル犯所臨檢ノ通知ヲ必要トスルニアラスヤトノ異說ナキニアラサル可シト雖モ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ就テノ豫審類似處分ニハ第三百十一條但書ノ明文アルノミナラス然ラサル罪ニ付テモ前區裁判所檢事ノ爲ス豫審類似處分ニ付キ述ヘタルト同一ノ理由ニ依リ予ハ之ヲ必要ナラサルモノト認ム豫審類似處分ハ處分權者ノ如何ニ依リテ其實質ヲ異ニス

第一　檢事ノ爲ス豫審類似處分ノ實質

檢事ノ爲ス豫審處分ト同一ノ實質ナルコトヲ元則トシ只例外トシテ(一)罰金又ハ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス（第百四十四條、第百四十六條）刑訴法第百二十六條及ヒ第百三十八條ニ依リ刑法第百七十九條及ヒ第百八十條ノ罰金ノ言渡ヲ爲スコトヲ得サルハ罰金ノ言渡禁止ノ結果ト云ハムヨリ寧ロ宣誓禁止ノ結果ナリト云フヲ可トス而シテ通事ヲ豫想セサルヲ以テ通事ニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ルヤノ疑ナキニアラス

第二　司法警察官ノ爲ス豫審類似處分ノ實質

司法警察官ノ爲ス豫審類似處分ハ檢事ノ爲ス豫審類似處分ト同一ノ實質ヲ有スルコトヲ原則トシ例外トシテ拘留狀ヲ發スルコトヲ得サルモノトス（第一四七條）

第四項　搜査ノ終期

搜査處分ハ司法警察機關ニ於テ嫌疑シタル事實ハ罪ト認ムヘキカラサルコト、罪ト認ムルコトヲ得ヘシト雖モ刑ヲ科スルコトヲ得サルモノナルコト又ハ罪ト認ム

ルコトヲ得可ク且ツ刑ヲ科スルコトヲ得ヘシト雖モ訴追スルコトヲ得サルモノナルコトカ證明セラレタル時期ニ於テ終了スルモノニシテ其終期ニ付テハ法律上何等ノ制限ヲモ受ク可キモノニアラス或ハ公訴提起ノ時期ヲ以テ捜査ノ終期ト爲ス者アリト雖モ之ノ不當ナルコトハ一般刑訴法學者ノ承諾スルトコロナリ或ハ公訴權ノ消滅シタル時期ヲ以テ捜査ノ終期ト爲ス者アリト雖モ公訴權消滅後ニ於ケル捜査ハ概ネ何等ノ效用ナキニ止マリ必スシモ法律上捜査ヲ爲ス可カラスト云フニ非ラス予ハ法律論トシテハ上述ノ如ク捜査ノ終期ニハ何等ノ制限ナク公訴權消滅後ニ於テモ非常上告又ハ再審ノ訴ヲ爲ス可キヤ否ヤニ關シ捜査ヲ爲スコトヲ得ヘシト信スルニ拘ハラス事實論トシテハ捜査ノ終期ハ概ネ公訴權消滅ノ時期ニ在ルコトヲ許容セムトス

第五項　捜査事件ノ處理

第一目　總說

捜査ハ上述ノ如ク必スシモ公訴ノ提起若クハ不提起ノ處分ニ依リ終了スルモノニアラス故ニ精確ニ捜査事件ノ處理ト云フトキハ公訴ノ提起後及ヒ公訴權ノ消滅後ニ於ケル捜査事件ノ處理ニ付テモ包含ス可シ然レトモ特ニ捜査事件ノ處理トシテ說明ス可キハ主トシテ公訴提起前ニ於テル捜査事件ニ關スルヲ以テ左ニ刑訴法第六十二條ニ所謂捜査ヲ終リタル事件ノ處理ニ付キ研究セムトス

刑訴法第六十二條ニ所謂捜査ヲ終リタル條件即チ公訴提起前ニ於ケル捜査事件ニ付テハ司法警察官及ヒ船長ノ爲ス可キ處分ト檢事ノ爲ス可キ處分トニ區別シテ論セサルヲ得ス

第二目　司法警察官及ヒ船長ノ捜査事件ノ處理

刑訴法ハ船長ノ捜査事件ノ處理方法ニ就キ何等ノ規定ヲモ設ケス然レトモ第四十八條ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ可シト規定シタル以上ハ司法警察官ノ捜査事件ノ處理方法ニ準シテ處理セシムル法意ナルカ如シ司法警察官ノ捜査事件ノ處理ニ就テモ刑訴法ノ規定ハ極メテ不完全ナリト謂ハサルヲ得スト雖モ左ニ一般捜査手續ヲ施行シタル事件ト特別捜査手續ヲ施行シタル現行犯事件トニ區別シテ說明セムトス

第一　一般捜査手續ヲ施行シタル事件ノ處理

一般捜査手續ヲ施行シタル事件中ニハ非現行犯事件ハ勿論上述ノ如ク時ニ現行犯事件ヲモ包含スル而シテ司法警察官罪ノ發生ヲ認知シ其捜査一段落ヲ告ケタル場合ニシテ且ツ

十一　事件刑ヲ科スヘキモノ又ハ公訴ヲ受理スヘキモノト思料シタル場合ニシテ

甲　其罪カ違警罪ナルトキハ之ヲ違警罪ヲ即決スヘキ者即チ警察署長警察分署長又ハ其代理タル官吏ニ之ヲ送付スヘク（第四十九條、第五十三條、第二項）

乙　其罪カ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ナルトキハ之ヲ檢事總長ニ報告スヘク（第三百十條、第二項）

丙　其罪カ區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ナルトキハ之ヲ區裁判所檢事ニ送致スヘク（第四十九條、第二項、第五十三條、第二項）

丁　其罪カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ナルトキハ之ヲ地方裁判所ノ檢事ニ送致スヘク（第四十九條、第二項、第五十三條、第二項）

戊　其他ノ官廳例之陸海軍ノ軍法會議、領事廳、理事廳、臺灣ニ於ケル法院等ノ管轄ニ屬スル罪ナルトキハ之ヲ相當官署ニ送致スヘシ（第四十九條、第二項、第五十三條、第二項）

二　事件刑ヲ科スヘカラサルモノ又ハ公訴ヲ受理スヘカラサルモノト思料シタルトキハ事件刑ヲ科スヘキモノナリトセハ之ヲ管轄スヘキ裁判所ノ檢事又ハ其他ノ官廳ノ官吏ニ之ヲ送致スヘシ但シ少クトモ告訴告發又ハ自首アリタル事件ニアラスンハ此種ノ手續ヲ勵行スルノ要ナカルヘシ

第二　特別捜査手續ヲ爲シタル現行犯事件ノ處理

特別捜査手續中逮捕又ハ引致ノ處分ノ如キハ其處分後概ネ一般捜査手續又ハ特別捜査手續ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ特ニ其處理方法ヲ攻究スルノ要ナシ但司法警察官カ巡査憲兵卒ヨリ其逮捕シタル被告人ヲ受取リタルトキハ逮捕及告發ニ付テノ調書ヲ作製スヘキ義務ヲ有スヘシ（第五十九條、第二項）豫審類似處分ヲ爲シタル現行犯事件ニ付テハ司法警察官ハ意見書ヲ添付シ管轄裁判所ノ檢事即チ檢事總長地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事ニ之ヲ送致スヘシ（第百四十九條、第二項）而シテ刑訴法ノ明文ニ依レハ違警罪ナリト思料シタル場合ニ於テモ之ヲ區裁判所檢

事ニ送致スヘク警察署長警察分署長其他ニ送附ス可キモノニアラサル如シ

第三目　檢事ノ捜査事件ノ處理

檢事ハ一般捜査手續ヲ施行シタル事件ナルトヲ問ハス常ニ事件ノ送致又ハ起訴又ハ不起訴ノ處分ヲ爲ス可キモノトス

第一　事件送致ノ處分

刑訴法第六十四條第二項ハ檢事ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シト規定シ又同法第六十二條第三號ニハ裁判所構成法第十六條第二號第三號(改正)ニ記載シタル輕罪又ハ違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シト規定ス而シテ現行犯ノ豫審ナル節中同一ノ趣意ノ規定ヲ見スシテ單ニ第百四十五條ニ於テ區裁判所檢事重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯ニ付キ特別捜査手續ヲ爲シタル場合ニ於テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ地方裁判所檢事ニ送致ス可シト規定スルハ訴訟法ノ缺點ナルノミナラス第六十四條第二項ニ於テ單ニ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シト規定スル趣意ヨリ類推シテ特別捜査手續ヲ施行シタル現行犯事件ノ處理ニ就テモ其裁判所ノ管轄ニ屬セサル場合ニ於テハ事件送致ノ處分ヲ爲ス可ク事件他ノ裁判所即チ通常裁判所又ハ特別裁判所ノ管轄ニ屬セス他ノ官廳例之稅務署等ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ亦事件送致ノ處分ヲ爲ス可キモノト信ス

第二　起訴若クハ不起訴ノ處分

一　總說　上述ノ如ク刑訴法ノ公訴提起ニ關スル主義ハ法律主義ニシテ便宜主義徹罪不檢擧主義起訴猶豫主義ニアラス故ニ解釋論トシテハ苟モ被告事件刑ヲ科ス可キモノニアルサル場合又ハ公訴受理ス可キモノニアラサル場合ニアラスハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得ス然レトモ凡テ法ノ目的ハ秩序ノ維持ニ在ルヲ以テ公訴ヲ提起シ刑ヲ科ス可キ事件ナリトスルモ其所罰ニシテ秩序ノ維持ニ裨補スルトコロナシトセハ必スシモ公訴ヲ提起ス可キ必要アルコトナシ故ニ近時立法ノ傾向ハ漸次便宜主義ヲ是認スルニ在ル如シ我

現時ノ實際ニ於テモ便宜主義ニ依リ刑訴ヲ解セムトスル如シト雖モ其誤謬タルハ言ヲ俟タス

二　不起訴ノ處分　檢事カ事件刑ヲ科ス可キモノニアラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス（第六十四條第二項第百四十九條第二項）不起訴ノ決定ハ裁判所ノ決定ヲ爲ス可キモノトス

構成法第百四十條ニ所謂司法事務取扱ノ方法殊ニ或事務ノ取扱方又ハ取扱ノ拒絕ニ外ナラサルヲ以テ同法ニ依ル抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク從テ同法第百三十五條ニ依ル司法行政ノ監督權者ハ同法第百三十六條第一項ニ依リ不起訴ノ決定ヲ爲シタル檢事ノ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スルコトヲ得ヘシ而シテ事件ノ告訴即チ公訴ヲ提起ス可キコトヲ告ヲ爲シ得ヘキハ疑ナク刑訴法第六十五條カ前者カ不起訴ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲シ得ヘキハ疑ナク刑訴法第六十五條カ前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シト規定シタルハ少クトモ一方ニ於テ告訴事件ニ付キ不起訴ノ決定アル事實ヲ告訴人ニ通知セシメ以テ該決定ニ對シ抗告ヲ爲スノ機會ヲ附與セムトスル可シト雖モ告發者ハ直接不起訴ノ決定ニ依リ何等ノ影響ヲモ受ケサルモノナルヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得サル可ク從テ不起訴ノ決定アリタルコトモ亦告發者ニ通知スルノ必要ナシ自首者亦同樣ナリト信ス

第三　公訴提起ノ處分

公訴ノ提起ハ書面又ハ口頭ニ依リテ之ヲ爲ス公訴ノ提起書ハ或ハ起訴狀又ハ豫審若クハ公訴ノ請求書ト稱スト雖モ告發者ハ直接不起訴ノ決定ニ依リ於テノミ又公判ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ口頭ヲ以テ起訴事實ノ概要ヲ陳述スルヲ以テ足レリトス但シ公判始末書ニ其陳述ノ要領ヲ記載セラル可キハ勿論ナルヲ以テ從テ同一被告人ニ對スル公判ノ段階ニ於ケルニアラスハ事實上公訴ノ口頭提起ナルモノアル可キニアラス

公訴ヲ提起スルニ付キ留意ヲ要スルハ內閣總理大臣三十四年四月十一日達ニシテ同達ニ依レハ勅任官從四位勳三等功三級以上ノ者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルトキニ限リ奏聞シタル後起訴シ其現行犯罪ニ係ルモノ

ハ起訴シタル後奏聞ス可キコトナリトス或ハ此種ノ場合ニ於ケル起訴前ノ奏聞ヲ以テ公訴權發生ノ條件ナリト爲ス者ナキニアラサル可シト雖モ予ハ前顯ノ達ハ單ニ公訴提起官ニ對スル訓令ノ一種ナリト信シ一般遵由ノ效力ヲ有セサルモノト信スルヲ以テ奏聞ノ有無ハ只檢事ノ職務執行ノ當否ノ問題ヲ生スルニ止マリ公訴ノ適法ナリヤ否ヤノ問題ヲ生スルコトナシ而シテ起訴後ノ奏聞モ亦公訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホス可キニアラス

公訴ノ提起ハソノ口頭ニ依ル場合ナルト又ハ書面ニ依ル場合ナルトヲ區別セス其明示ス可キ事項ニ付テハ全然同一ナリ但シ書面ニ依ル公訴提起ノ場合ニ於テハソノ提起書ヲ要スル點ニ於テ特別ニ書類ノ形式ニ關スル要件ヲ具備セサル可カラス

一　通論　公訴ヲ提起スルニ付キ表示ス可キ事項左ノ如シ

甲　罪タル事實ノ概要ノ表示　所謂罪タル事實ノ概要トハ刑ヲ科セラル可キ事實ノ概要ヲ云ヒ刑訴法ニハ何等ノ明文ナシト雖モ少クトモ罪タル事實ノ概要ノ明示アル可キコトハ刑訴法カ彈劾主義ヲ採用シタル當然ノ結果ナリトス而シテ罪タル事實ノ概要ノ明示ハ書面ニ依ル公訴ノ提起ニ付キ論スレハ直接ニ提起書ニ其事實ヲ記載スルヲ本則トスレトモ一件書類中ノ他ノ書類ニ於テ罪タル事實ノ記載アル場合ニ於テハ其書類ヲ採用シ又ハ單ニ其事實ノ構成ス可キ罪名ノミヲ擧示シテ以テ間接ニ罪タル事實ヲ記載スルヲ以テ足レリトス而シテ其直接ニト記載シ若クハ單ニ竊盜罪ト記載スルヲ以テ足レリトス例之司法警察官ノ意見書ニ記載シタル事實ヲ參照シテ知了スルコトヲ得可シ而シテ大審院カ近時罪名ノ擧示ヲ以テ罪タル事實ノ表示ニ代ヘタル場合ニ付キ公訴提起ノ當時罪タル事實ヲ記載シタル書類ナシト雖モ提起後此種ノ書類アルニ至リタルトキハ無效ノ起訴ハ追完セラレテ有效ノ起訴タルニ至ルト判示シタルハ上述シタルト

コロナリト雖モ其不當ナルハ論ヲ俟タス

乙　氏名其他ノ徴表ニ依ル被告人ノ表示　公訴ハ事件ニ關シ提起セラルヽヤ又ハ被告人ニ關シ提起セラルヽヤノ問題ハ從來盛ニ論爭セラレタルトコロナリシト雖モ現時ニ至リテハ原則トシテ被告人ニ關シ提起セラルヽモノナルコト疑ヲ容ルヽノ餘地ナシ是レ公訴ノ目的ハ要スルニ被告人ニ對スル科刑請求權ノ確定即チ具體的科刑請求權ノ確定ニ外ナラサレハナリ而シテ豫審ノ請求モ亦後述ノ如ク公訴提起ノ一方法タルニ過キスト雖モ豫審ノ目的ハ公判ノ目的ト異リ全然公訴ノ目的ト一致スルモノニアラスシテ證據ノ集取自體モ亦豫審ノ目的タルヲ失ハス予ノ信スルトコロニ依レハ現行犯罪ノミニ付テハ氏名其他ニ依ル被告人ノ表示ナシトスルモ即チ氏名不詳ノ被告人ニ對シテモ亦豫審ヲ請求スルコトヲ得ヘシ此種ノ見解ノ根據ハ(一)上述ノ如ク豫審特ニ現行犯罪ノ豫審ハ證據ノ集取ヲモ其目的トスルコト(二)豫審判事ノ現行犯ニ對スル特別處分ニ付テハ被告人不詳ナルモ公訴ノ提起ト同一ノ效力アルコト(三)起訴ハ未發覺ノ正犯又ハ從

犯ニ付テモ亦時效中斷ノ效力ヲ有スルコト(四)刑訴法ノ母法タル治罪法ニ於テハ少クトモ現行犯罪ニ付テハ公訴ハ事件ニ關シ提起セラルヽモノナリトノ主義ヲ採用シタルコト等ニシテ此見解ノ弱點トシテ論ス可キハ(1)氏名不詳者ニ對スル豫審終結ノ決定ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ少クトモ決定前被告人ノ氏名又ハ徴表等判明スルニアラスハ何等實益ナキ起訴タル可キコト(2)刑訴法第六十六條ニ豫審ヲ求ムルトキハ逮捕ス可キ人名ヲ指示ス可キ旨ヲ規定スルコトニ在リ學者現時ニ於ケル公訴ハ被告人ニ關シテ提起ス可キモノナリトノ見解ヲ採用スル如シト雖モ獨刑訴法ニ於ケル如ク被告人不詳ノ場合ニ於テモ區裁判所判事ニ請求シテ個々ノ强制處分ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキ法制アルニアラスハ其見解ハ實際ノ必要ニモ反スルコトヲ免レス大審院ハ從來所謂事件論ヲ採用シタリシカ近時ニ至リ予ト同一ノ見解ヲ是認スルニ至レリ故ニ實際ニ於テモ現行犯罪ニ付テハ檢事ハ氏名未詳者ノ罪タル事實ニ付キ豫審處分ヲ請求シ豫審判事ハ其豫審處分ノ結果被告人ヲ發見スルコトヲ得サル場合ニ於テハ豫審ヲ中

止ニ付シ終結ノ決定ヲ爲サヽル如シ

丙　公判又ハ豫審ヲ請求スル旨ノ表示

丁　公判又ハ豫審ノ審判ヲ爲ス可キ裁判所ノ表示

二　特ニ公訴ノ提起書ニ要ス可キ事項　公訴ノ提起書ハ檢事ナル官吏カ刑訴法ニ依リ作製ス可キ書類ナルヲ以テ上述ノ一般書類ノ作製ニ要スル形式ヲ遵守ス可キヤ勿論ナリ從ツテ少クトモ提起書作製ノ年月日檢事ノ署名捺印所屬檢事局ノ官印ノ押捺其他ヲ必要トス可シ尙ホ刑訴法第六十六條ニ依レハ公訴提起ノ際證據物及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ノ送致及ヒ臨檢ス可キ場所、逮捕ス可キ人名、證人ト爲ル可キ人名ノ指示アルコトヲ要スル如シト雖モ固ヨリ必須ノ要件ニハアラス

公訴提起ノ處分ハ上述ノ如ク豫審若クハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲ス可ク其提起者ノ如何ニ因リ左ノ區別ヲ生ス

一　檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ナリト認メタルトキハ大審院長ニ豫審判事ヲ命ス可キコトヲ請求スルニ依リテ公訴ヲ提起ス（第三百十三條）

二　地方裁判所檢事ハ豫審ヲ請求スルニ依リ或ハ直ニ公判ヲ請求スルニ依リ公訴ヲ提起ス

甲　豫審ヲ請求スルニ依リ公訴ヲ提起ス可キ事件ハ左ノ如シ（第六十二條第一號及ヒ第二號、第百四十五條、第百四十八條第一項）但シ大審院ノ特別權限ニ屬セサル事件ニ限ル

イ　重罪ト思料シタル事件

ロ　地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ト思料シタル事件ニシテ繁雜ニシテ豫審ヲ要スルモノ

乙　公判ヲ請求スルニ依リ公訴ヲ提起ス可キ事件ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ト思料シタル事件ニシテ豫審ヲ要セサルモノ（第六十二條第二號、第百四十九條第一項）

三　區裁判所檢事ハ常ニ公判ヲ請求スルニ依リテ公訴ヲ提起スルモノトシ其公訴ヲ提起ス可キ事件ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪及ヒ違警罪ト思料シタル事件ニシテソノ大審院ノ特別權限ニ屬ス可キ事件ヲ除外ス可キハ勿論ナリトス而シテ區裁判所檢事カ特別ノ搜查ヲ爲シタル現行犯事件ニ付キ被告人ニ勾留狀ヲ發シタルトキハ必ラス三日內ニ公訴ヲ提起スルヤ否ヤヲ決

定シ各其手續ヲ爲サヽル可カラス（第百四十六條第二項）

而シテ上述ノ區別ニ例外ナシト思料スルハ誤謬ナリ上述ノ如ク刑訴法第二十五條ノ結果トシテ同一被告人ノ他ノ罪ニ付キ同時ニ起訴ス可キ場合ニハ檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬セサル事件ニ付テモ大審院ニ起訴スルコトアル可ク地方裁判所檢事ハ違警罪又ハ豫審ヲ要セサル輕罪ニ付テモ豫審ヲ請求スルコトアル可キナリ

刑訴法ニ在リテハ民訴法ニ於ケルト異ナリ公訴提起ノ效力ハ單ニ裁判所及ヒ當事者間ニ訴訟關係ヲ生セシムルニ止マリ民訴法ノ所謂權利拘束トハ民訴法學者ノ所謂權利拘束ト別スルコトナシ刑訴法學者ノ所謂權利拘束ト雖モ一般刑訴法學者ノ所論トハ單ニ語句ノ爭意義ヲ有スルヲ以テ或ハ予ノ所論ト一タルニ過キサル可シト雖モ刑訴法ニ所謂公訴ノ提起カ權利拘束ノ效力ヲ有セサルハ(一)同一被告人ノ數個ノ罪ニ對シ判決前ニ二個ノ公訴ノ提起アリタルトキハ其提起ノ先後如何ニ關セス上訴裁判所併セテ之ヲ管轄ス可キコト(二)同等ノ裁判所間ニ在リテハ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ニ於テ管轄ス可

キコト等ヨリ稽査スレハ洵ニ明白ナリ而シテ刑訴法ニ於テハ何故ニ民訴法ト異ナリ如斯管轄ニ關スル規定ヲ置カサル可カラサルヤハ民訴法ニ於テハ原告ハ管轄裁判所ノ選擇ヲ爲シ被告ハ權利拘束ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ルニ拘ハラス刑訴法ニ於テハ所謂原告タル檢事ノ單ニ其所屬裁判所ニノミ起訴スルコトヲ得ルノ自由ヲ有スルニ止マリ從テ數人ノ檢事ハ有效ニ各自其所屬裁判所ニ有效ナル數個ノ公訴ヲ提起スルコトヲ得ルノ差異アルヲ以テナリ要スルニ刑訴法ニ在リテハ民訴法上ニ權利拘束ノ問題トシテ解決ス可キ事項ヲ特別ノ明文ニ依リ管轄ノ問題ト爲スヲ以テ從テ刑訴法上ニ於ケル公訴提起ノ效力ハ單ニ訴訟關係ヲ生スルニ止マリ所謂權利拘束ノ效力ヲ生スルコトナシ而シテ刑訴法ニ於テモ權利拘束ノ效力ヲ認ムル學者ハ理論上比較的後ノ公訴ニ對シテハ公訴ノ不受理ノ言渡ヲ爲ス可キモノト斷定セサルヲ得スト雖モ予ノ信スルトコロニ依レハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可キモノニシテ立法論トシテモ公訴ノ受理不受理ノ問題ハ管轄ヲ有スル裁判所ノ決定ス可キモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ其前提タル管轄ノ有無ノ問題ニ依リテ之ヲ解決スルヲ妥當ナリトス

刑訴法第六十五條ニ依レハ告訴ニ係ル事件ニ付キ公訴ヲ提起シタルトキハ被害者タル告訴者ニ通知セサル可カラス然レトモ其實益ハ直ニ其公判ヲ請求スル場合ニ於テ民事原告人タル被害者ニ付テノミ存スルニ止マルヲ以テ現時ノ實際ニ於テハ上述ノ如ク單ニ不起訴ノ決定ヲ爲ス場合ニ於テノミ之ヲ通知スルコトヲ通常トス蓋シ此場合ニ於ケル通知ノ懈怠ハ違法ナルコト疑ナシト雖モ公訴自體ノ運命ニハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナキヲ以テ政路上違法ノ處分ヲ爲スヲ甘ンスルニ外ナラサル可シ

第三款　審判

第一項　總說

第一目　審判ニ關スル主義

審判ニ關シテハ別ニ一貫シタル主義ナルモノナク概ネ兩極端ノ主義ヲ併用シテ以テ審判ノ實際ニ適應セシムルコトヲ常トシ其間單ニ比較的原則ト認ム可キ主義ト比較的例外ト認ム可キ主義トノ區別アルノミ而シテ此種ノ意義ニ於ケル主義ハ多樣ニシテ列擧ニ遑ナキヲ以テ左ニ其重要ナルモノヽミヲ擧示セムトス

第一　直接審理主義及ヒ間接審理主義

一　總說　學者或ハ直接審理主義ヲ以テ口頭辯論主義ト同視シ間接審理主義ヲ以テ書面審理主義ト同視スルコトナキニアラス是レ要スルニ獨乙刑訴法ニ於ケル特別ノ沿革ニ胚胎スルモノヽ如クニシテ實際ニ於テハ直接審理ハ概ネ同時ニ口頭辯論ニ關シ書面審理ハ概ネ間接審理ナル如シト雖トモ蓋シ審理ノ直接ナルヤ間接ナルヤハ事物ヲ認識スルニ付キ直接方法ニ依ルヤ又ハ間接方法ニ依ルヤニ關シ審理ノ口頭辯論ニ基クヤ又ハ書面ノ記載ニ基クヤノ事物ヲ認識スルニ付キ聽官ニ依ルヤ又ハ視官ニ依ルヤニ關スルモノナルヲ以テ二者ハ確然之ヲ區別セサル可カラス二者間ニ確然タル區別アルヲ以テ(一)例之啞者タル被告人ノ訊問ノ如キハ書面審理ナリト雖モ直接審理ナル場合アリ(二)例之受命判事等ノ人的證明ノ集取ノ如ク口頭ノ陳述ニ基ックヲ審理ナリト雖モ間接ノ審理ナル場合アリ(三)例之檢證ノ如ク口頭辯論ニモ書面辯論ニモアラスシテシカモ直接ノ審理カ否ラサレハ間接ノ審理タル場合アリ

二　直接審理主義　人ノ觀察力ハ觀察ス可キ事物ニ近接シタル場合ニ於テ最モ精緻ヲ極ム可キコト言ヲ俟タス故ニ審判權者モ亦其認定ス可キ事物ニ近接セサル可カラス直接審理主義トハ主觀的ニ云ヘハ審判權者カ其官能ニ依リ自身裁判ノ基礎タル可キ觀察ヲ爲ス可ク原則トシテハ受命判事受託判事又ハ裁判所書記其他ノ者ノ官能ニ依リテ觀察セシム可カラサル主義ニ關シ客觀的ニ云ヘハ審判權者カ各事物ヲ觀察スレハ必ラス其事物ノ原體ニ付キ爲サヽル可カラサル主義ニ關ス或ハ直接審理主義ヲ以テ單ニ證據集取ニ關スル原則ト爲ス者アリ是レ要スルニ直接審理ノ效用ハ實際上特ニ證據集取ニ付キ存スルニ因ルナルヘシト雖モ因ヨリ狹隘ニ失スル見解ニシテ理論上ヨリ云ヘハ直接審理主義ハ單ニ證據集取ノミナラス當事者ノ辯論其他ニモ關スルモノト信ス

直接審理主義ヨリ生ス可キ理論上ノ效果ハ(一)人的又ハ物的證明其他ハ總テ審判權者自身ノ官能ニ依リテ觀察ス可ク特ニ證據物ニ付テハ檢證ヲ爲シタル後又ハ之ヲ爲スコトヲ得サル場合ニアラサレハ人的證據方法ニ依リテ其證明ヲ集取スルコトヲ得サル可ク(二)人的證據方法ヲ利用ス可キ場合ニ在リテモ直接關係者ノ利用ヲ前ニシ間接關係者即チ所謂傳聞證人ノ利用ヲ後ニス可ク(三)傳聞證人特ニ直接關係者ノ利用ニ付テモ訊問ヲ爲シタル後又ハ之ヲ爲スコトヲ得サル場合ニアラサレハ陳述書其他ノ書面ヲ充用スルコトヲ得サル可ク又(四)凡テノ場合ニ於テ徵憑ノ集取ニ甘ンセス成ル可クハ直接ニ證據ノ集取ヲ計企ス可キコト其他ナリトス

三　間接審理主義　間接審理主義ハ直接審理主義ニ相對スル主義ナルヲ以テ其主義ノ意義モ亦特ニ之ヲ說明スルノ要ナシト信ス要スルニ間接審理主義ハ一面ヨリ云ヘハ仲介者ニ依ル審理ニシテ一面ヨリ云ヘハ仲介物ニ依ル審理ニ外ナラス而シテ間接審理主義ヨリ生ス可キ論理上ノ效果ハ一面ヨリ云ヘハ受命判事受託判事通事其他ノ仲介者ニ依ル審理タル可ク一面ヨリ云ヘハ間接關係者ノ訊問直接關係者ノ書面上ノ陳述ノ閱讀撮影物謄本其他ノ仲介物ノ檢證ニ依ル審理ナル可シ

四　前記ノ主義ト現行ノ法制

甲　二主義ノ利弊　概言スレハ前記二主義中直接審理主義ヲ以テ好良ナリト謂ハサルヲ得ス蓋シ事物特ニ陳述ハ仲介ニ依ラサルヲ以テ精確ナル觀察ヲ爲シ得ヘキ理ニシテ尚ホ長時期ニ於テ記憶ヲ保持スル利便アルノミナラス人的證明ノ集取ニ付テハ單ニ陳述ノミナラス其容貌態度ノ遲速其他ノ模樣等ヲ顧慮セサル可カラス又陳述ノ不明ナル部分ニ就テハ質疑シテ其趣旨ヲ了解セサル可カラサルニ拘ハラス間接審理ニ於テハ凡テ此種ノ利便ヲ欠缺スレハナリ然レトモ反之文書ノ如キハ其原物ト異ナラサル謄寫物等ヲ作製スルコト容易ナルヲ以テ此場合ニ於ケル間接審理ハ實際上直接審理ト區別スルコトナキノミナラス特ニ各種ノ調書等ニ付テハ調書作製者ハ概ネ官吏ニシテ個人トシテ其調書ヲ作製スルニアラス從フテ時ノ經過ハ其記憶ヲ多大ニ減退セシム可キヲ以テ又戸籍簿前科表其他ノ如キハ原本ノ提出ニ不便アルヲ以テ直接其官吏ニ付キ審理スルヨリハ寧ロ間接ニ調書又ハ謄本ニ依リ審理スルヲ優レリトス若シ然ラハ間接審理主義ノ效用モ未タ俄ニ之ヲ評價シ易カラス故ニ各國ノ刑訴法ハ直接審理主義ヲ採用スト標榜スルニ拘ハラス必ラスシモ間接審理主義ヲ全然除外セス前者ヲ原則トシ後者ヲ除外例トシテ要スルニ二主義ヲ併用ス而シテ吾刑訴法モ亦然リ

乙　刑訴法ノ認ムル直接審理主義　刑訴法カ直接審理主義ヲ採用シタルヤ否ヤニ付テハ別ニ徵ス可キ明文ナシ然レトモ受命判事又ハ受託判事ニ依ル審理ヲ許容スル場合ニハ必ラス明文ヲ置クコト其他ヨリ推論スルトキハ原則トシテ直接審理主義ヲ採用シタルヤ殆ント疑ナシ而シテ獨乙刑訴法ノ如キハ（第二百四十九條）事實ノ證明ニシテ人ノ實驗ニ依ルモノニ付テハ公判ニ於テ其人ヲ訊問ス可キモノトス而シテ其前ノ訊問ニ付キ作製シタル調書又ハ陳述書ノ朗讀ヲ以テ其訊問ニ代用スルコトヲ許サスト規定ス此規定ニ付テハ多少非難ス可キ點ナキニアラスト雖モ其大體ノ趣旨ニ付テハ毫モ間然スルトコロナキニ拘ハラス我刑訴法上何等此種ノ規定ヲ設ケサルハ其缺點ナリト云フコトヲ得ヘシ原則トシテ直接審理主義ヲ採用シタル吾刑訴法ニ於テモ例外トシテ間接審理主義ヲ認ムルハ後述ノ如シト雖

モ例外ニ屬セサル場合即チ間接審理主義ヲ認メタルニアラサル場合ニ於テモ亦直接審理ヲ爲サヽルコトナキニアラス

イ　所謂設權文書ニ付テハ文書自體ニ於テ事物ノ凡テノ經過ヲ表示スルヲ以テ寧ロ其文書ニ依リ審理ヲ爲スヲ利便ナリトシ從テ其製作者其他ニ付キ直接ノ審理ヲ爲サヽルコト多カル可シト雖モ間接審理主義適用ノ結果ニハアラス

ロ　事實上事物ニ近接スルコト能ハサル場合ニ於テハ直接審理ヲ爲サスト雖モ間接審理主義適用ノ結果ニハアラス換言スレハ直接審理主義ハ絶對的主義ニアラスシテ相對的主義タルニ止マル而シテ事物上事物ニ近接スルコト不能ナル場合ハ人的證據方法ニ付キテ云ヘハ死亡罹病失踪旅行、陳述ノ牴觸陳述ノ不爲等ヲ云ヒ物的證據方法ニ付キテ云ヘハ滅失、紛失、毀損等ヲ云フ

丙　刑事訴訟法ハ例外トシテ間接審理主義ヲ採用スト雖モ仲介者ノ利用ニ付キテ云ヘハ受命判事又ハ受託判事ニ依ル審理ヲ許容シ（第七十條、第百十二條、第百三十二條、第百九十條、第百九十一條）仲介物ノ利用ニ付キテ云ヘハ

イ　上述ノ如ク直接審理主義ハ必ラスシモ間接審理主義ヲ除外スルモノニアラサルヲ以テ刑訴法上制限規定ナキ限リ任意原物ニアラサルモノニ付キ間接審理ヲ爲スコトヲ妨ケサルヤ勿論ナリ而シテ我刑訴法ニ於テハ獨乙刑訴法第二百九十四條ノ規定ノ如キハ勿論其他何等制限規定ト見ル可キモノナシ

ロ　公判ノ段階ニ於テ豫審調書等ノ朗讀ヲ許ス場合アリ即チ公判ノ段階ニ於テ或ル證人ヲ呼出サヽルトキ呼出シタリト雖モ出頭セサルトキ又ハ證人鑑定人ノ豫審及ヒ公判ニ於ケル陳述ヲ比較スル必要アルトキハ裁判長ノ職權又ハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ證人ノ訊問調書又ハ鑑定書ヲ朗讀スルコトヲ得ルモノトス（第百八十九條、第二項）而シテ被告人ニ關スル豫審調書ニ付テハ如斯條項アルコトナシト雖モ同一ノ趣旨ニ類推スルコトヲ得ヘシ

ハ　控訴ノ審判ニ在リテハ書類ノ朗讀ヲ許ス場合尚ホ廣濶ナリ即チ控訴

ノ公判ノ段階ニ在リテハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用スルノミナラス尚ホ第一審ニ於テ訊問シタル證人鑑定人ニシテ控訴裁判所ニ於テ其訊問ヲ必要ナラスト思料シタルトキハ之ヲ呼出サヽルコトヲ得則チ其陳述書又ハ鑑定書ヲ朗讀スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定ス（第二百五十八條）而シテ此種ノ法制ノ根據ハ完全ナル審理ハ之ヲ重複スルノ要ナキコトニ在リ

二　上告審ノ審判ニ在リテハ間接審理主義ノ適用特ニ多大ニシテ直接審理主義ハ訴訟記錄ノ實見等極メテ狹隘ナル範圍ニ於テノミ其適用ヲ有ス換言スレハ上告審ニ在リテハ單ニ訴訟記錄ノ記載ノミニ依リテ審判ヲ爲サヽルヲ得ス

第二　口頭辯論主義及ヒ書面審理主義

一　總說　口頭辯論主義及ヒ書面審理主義トハ凡テノ審判ニ付キ其適用ヲ有スルモノニアラスシテ(一)審判手續中意思表示ヲ爲ス手續ニ關シ(二)尚ホ意思表示ヲ理解スルコトヲ得ル者ノ干與スル手續ノミニ關ス故ニ檢證拘引勾留

謂書作製其他ノ手續又ハ裁判所ノ用語ニ通セサル者又ハ瘖啞者ノ通事ニ依ル訊問ノ如キハ口頭辯論主義又ハ書面審理主義ノ適用ナリヤ例外ナリヤノ問題ノ範圍外ニ屬スルモノナリ

二　口頭辯論主義　殆ント凡テノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テハ國語ニ依ル意思表示ヲ爲サヽルヲ得ス而シテ國語ニ依リ意思ヲ表示スルニ付テモ其表示方法トシテ言語ヲ使用スルコトアリ又文字ヲ使用スルコトアリ口頭辯論主義ハ言語ニ依リ訴訟行爲ヲ爲スニアラスハ訴訟法上何等ノ效用ヲモ附與セサル主義ヲ云フ而シテ口頭辯論主義ナリヤ否ヤノ問題カ證據集取ニ何等ノ關係ナキハ言ヲ俟タサルトコロナリ

口頭辯論主義ヲ認ムル結果ハ口頭ノ意思表示ニアラスハ訴訟法上ノ效用ヲ有セシムルヲ得サルコトニ在リテ從テ

甲　審判構者ハ裁判ヲ爲ス時期マテ引續キ在廷セサル可カラス（裁判所構成法第百二十條、第百七十六條、第二項）是口頭ノ意思表示ノミヲ顧慮ス可キモノナルヲ以テ其意思表示ヲ理解シ得ヘキ狀況ニ在ル者即チ在廷者ニアラスハ審判ヲ爲

スコトヲ得サレハナリ但シ當事者ハ引續キ在廷スルノ要ナシ蓋シ檢事ノ在廷ヲ要スルハ勿論ナリト雖モ是レ口頭辯論主義ノ結果ニアラスシテ寧ロ檢事ノ在廷セサルトキハ裁判所ノ構成ヲ缺クニ至ルノ結果ナリ而シテ被告人ニ付テハ陳述ヲ爲シ或ハ抗辯ヲ爲スノ必要上概ネ在廷スト雖モ口頭辯論主義ノ效果ハ單ニ被告人ニ對シ在廷ノ機會ヲ與フ可キコトニ止マリ被告人其機會ヲ利用セスシテ出廷セサル場合ニ於テハ其口頭ニ依ル意思表示ヲ顧慮セスシテ審判スルトスルモ毫モ口頭辯論主義ニ背違スルトコロナシ

乙　期日ヲ指定セサル可カラス、是口頭辯論主義ヲ採用シタリトスレハ關係人一所ニ集圖シテ各意思表示ヲ爲サヽル可カラサレハナリ

丙　訴訟法上重要ナル事實例之告訴ノ有無ニ關シテモ亦口頭辯論ノ際攻究セラレサル可カラス　或ハ此種ノ事實ハ罪態ニアラサルヲ以テ口頭辯論主義ノ適用ナキニアラスト雖モ不當ナリ

丁　公知ノ事實法律上ノ推定事實等ニ關シテハ上述ノ如ク證明アルコトヲ要セスト雖モ必ラスシモ口頭辯論主義ノ適用ナシト云フコトヲ得スシテ此種ノ事實モ口頭辯論ノ際攻究セラレタルニアラスハ訴訟法上ノ效力ヲ有スルコトナシ

戊　審判ハ必ラス連續シ訴訟材料ハ必ラス近接セサル可カラス　是レ亦口頭ニ依ル審理ハ單ニ一時的ニ聽官ノミニ依賴スルモノナルヲ以テ一層其記憶ノ保持ニ懸念セサル可カラスシテ記憶ハ一般ニ云ヘハ比較的短日時間內ニノミ存續ス可キヲ以テ口頭辯論主義ヲ認ムルモノトスレハ概ネ其審判ヲ連續セシメ永ク之ヲ停止セシメサルヲ利便トスルヲ以テナリ而シテ此結果ハ學者ノ或ハ審判連續主義ト稱スルモノニシテ吾刑訴法第百八十二條、第二百四條、第二百九條等ハ要スルニ此主義ヲ採用シタル結果ニ過キス

三、書面審理主義　書面審理主義トハ口頭辯論主義ニ相對スル語句ニシテ上述ノ如ク文字ニ依リ訴訟行爲ヲ爲スニアラスハ訴訟法上何等ノ效用ヲモ附與セサル主義ヲ云フモノトス而シテ視官ニ依ル觀察ヲ基礎トシテ審判

ヲ爲ス可キコトハ書面審理主義ヨリ生スル當然ノ結果ナリトス

四　前記ノ主義ト現行ノ法制

甲　二主義ノ利弊　事物ノ誤解ヲ防キ其強固ナル記臆ヲ得ルニ付テハ口頭辯論ニ依ルヲ可トス故ニ刑訴法ニ於テハ口頭辯論主義ヲ原則タル主義トシ爲スモノヽ如シト雖モ其缺點モ亦多大ナラストセス口頭辯論主義ノ缺點ハ言語ノ即時消失スルコトニ在リ換言スレハ書面審理主義ノ長所ハ文字カ時ノ經過ニ依リ影響ヲ受ケサルコトニ在リ而シテ即時消失ス可キ言語ニ依ル意思表示ヲ基礎トスル審理主義ニ在リテハ冷靜ナル考慮ヲ缺クコトヲ免レス時ノ經過ニ依リ影響ヲ受ケサル文字ニ依ル意思表示ヲ基礎トスル審理主義ニ在リテハ此種ノ虞アルコトナシ、吾刑訴法モ要スルニ口頭辯論主義及ヒ書面審理主義ヲ併用シタリ

乙　刑訴法ノ認ムル口頭辯論主義　刑訴法ハ元則トテハ口頭辯論主義ヲ認ム而シテ此點ニ付テハ何等特別ノ明文ナシト雖モ刑訴法カ書面審理主義ヲ認ムル部分ニ就キ後述ノ如ク特ニ明文規定ヲ設ケタル趣旨其他ヨリ立

論スレハ殆ント懷疑ノ餘地ナシ（第百七十六條、第百九十六條、第二百十九條、第二百二十條）獨乙刑訴法（第三十一條）ハ裁判所ノ裁判ハ公判ニ於テ爲ストキハ檢事局ノ書面又ハ口頭ニ依ル陳述アリタル後言渡スモノトスト規定シ要スルニ口頭辯論ニ依ル審判ハ主トシテ第一審公判特ニ判決ヲ爲スニ付キ其效用ヲ有ス可キ旨ヲ定ム吾刑訴法ニハ同樣ノ規定アルコトナシト雖モ殆ント同樣ノ取扱ヲ爲ス可キモノト信ス

丙　刑訴法ノ認ムル書面審理主義　刑訴法ニ於ケル原則タル主義ハ上述ノ如ク口頭辯論主義ナリト雖モ書面審理主義ノ適用ヲ有スル部分亦タ甚タ多大ナリ

イ　搜査ノ段階ハ專ラ書面審理主義ノ支配ニ屬スルモノニシテ凡テノ審理ハ書面ニ依リテ爲サルヽモノトス

ロ　豫審ノ段階ニ於テモ亦同シ

ハ　公判ノ段階ニ於テモ公判外ノ手續例之呼出期日ノ指定等ハ書面審理主義ノ適用ヲ受ク可シ

二　抗告ノ審判、裁判管轄移轉ノ審判、裁判管轄指定ノ審判ハ總テ書面審理ニ屬ス

ホ　公訴ノ提起ハ概ネ豫審又ハ公判ノ請求書ニ依リ上訴ノ提起ハ常ニ提起書ニ依リ尚ホ上告ニ付テハ上告趣意書及ヒ上告趣意擴張書ニ依リ又裁判ハ概ネ裁判書ニ依リテ爲サルヽモノトス

第三　審理公開主義及ヒ審理密行主義

一　審理公開主義　審理公開主義トハ訴訟ヲ公開シテ各人ヲシテ其經過ヲ觀察セシムル主義ヲ云ヒ其各人ヲシテ訴訟ノ經過ヲ觀察セシムト云フモノモ要スルニ各人ヲシテ訴訟ノ經過ヲ觀察センコトノ請求權ヲ有セシムト云フニ止マリ必ラスシモ實際上多衆カ列席スルコトヲ要セサルヤ勿論ナリ或ハ審理公開主義ノ一種トシテ所謂當事者公開主義即チ審理ヲ當事者ニ公開スル主義ヲ認ムル者アリ之ヲ審理公開主義ノ一種ト爲ス可キヤ否ヤハ要スルニ語句ノ爭タルニ過キサル可シ而シテ刑訴法ニ於テハ檢事及ヒ被告人ハ公訴ノ段階ニ於テハ概ネ常ニ豫審ノ段階ニ於テハ檢證搜查差押ノ處分ニ限リ（第百八條）立會フモノトシ特ニ被告人ハ訴訟ノ段階ノ如何ニ拘ハラス（裁判所構成法第百九條第一項刑訴法第百九十七條）退去ヲ命セラルルコトアリトス（裁判所構成法第百六條）

二　審理密行主義　審理密行主義トハ各人ニ對シ訴訟ノ經過ヲ觀察セムコトノ請求權ヲ附與セサル主義ヲ云ヒ審理公開主義ニ相對スル主義ナリトス而シテ權限者ノ特別ノ許可ヲ得タル者カ其經過ヲ觀察スルコトハ審理ノ密行ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ（裁判所構成法第百六條）

而シテ審理ノ公開カ概ネ口頭辯論ノ際實行セラルヽ如ク審理密行ハ概ネ書面審理ノ際實行セラルヽモノトス然レトモ審理ノ密行ト書面審理トハ理論上分離ス可カラサル關係ヲ有スルモノニアラスシテ例之搜查ノ段階ニ於テハ審理密行セラルヽニ拘ラス書面審理ニモ又口頭審理ニアラス

三　前記ノ主義ト現行法制

甲　二主義ノ利弊　審理カ公開ナリヤ又密行ナリヤハ其實質ニ於テハ個々ノ訴訟ニ付キ論スルモ又一般ニ司法上ヨリ論スルモ特ニ重要ナル利害問題タルノ價値ナシ然レトモ審理ヲ公開スルトキハ單ニ法令ノ勵行眞實ノ

攻究ニ付キ效用アルノミナラス司法ニ對スル民衆ノ信用ヲ增進シ不當ノ審理及ヒ裁判ニ對シ民衆ノ自由ナル批判ヲ爲サシムルニ付キ多大ノ便利アルヲ以テ形式上ノ議論又ハ政略論トシテハ寧ロ審理公開主義ヲ以テ優レルモノト謂ハサル可カラス

乙　刑訴法ニ於ケル審理公開主義　憲法第五十九條ニ依レハ裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開スト規定ス而シテ所謂對審トハ公判ノ段階ヲ意スルヲ以テ公判特ニ各審級ニ於ケル公判ノ段階ニ於テハ必ラス其審判ヲ公開セサル可カラス但シ憲法ニ依ルトキハ尙ホ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得ト規定シ我裁判所構成法第百七條第百九條ニ依レハ特定者ノ退廷ヲ命スルコトヲ得ヘシ

イ　審理公開ノ停止　審理公開ノ停止ハ法律ニ於テ之ヲ命シタル場合ニハ當然然ラサル場合ニ於テハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス而シテ裁判所ノ決定ニ依リ審理ノ公開ヲ停止スルトキハ公衆ヲ退廷セシムル前決

定ノ主文及ヒ理由ヲ告知ス可キモノトス但シ判決言渡ノ際ニハ常ニ公開ヲ停止スルコトヲ得サルヲ以テ審理公開ヲ停止シタル場合ニハ其言渡前公衆ノ入廷ヲ許容セサル可カラス（裁判所構成法第百五條）

ロ　特定者ノ退廷命令　特定者ニ對シ退廷命令ヲ發スルハ在廷者ノ範圍ノ減縮ニ外ナラスシテ退廷命令ヲ受ク可キ者ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者（裁判所構成法第百九條第一項）及ヒ婦女兒童又ハ相當ノ衣服ヲ着セサル者（裁判所構成法第百七條）ナリトス

丙　刑法ニ於ケル審理密行主義　憲法ハ對審判決ノミノ公開ヲ規定スルヲ以テ搜査及ヒ豫審ノ段階ノ如キハ凡テ密行ナリト解セサル可カラス而シテ公判ノ段階ニ於ケル訴訟行爲ニ付テモ公判外ニ於ケルモノナリトスレハ之ヲ密行セサル可カラス所謂公判外ニ於ケル訴訟行爲トハ裁判所ノ評議及ヒ受命判事又ハ受託判事ニ依ル審理ナリトス

イ　裁判所ノ評議ノ密行ニ付テハ裁判所構成法第百二十一條ノ規定ヨリ公行セスシテ單ニ豫備判事及ヒ試補ノミノ傍聽ヲ許スコトヲ得ヘク尙

ホ評議ノ顚末並ニ各判事ノ意見及ヒ多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルヘキ旨ヲ規定ス故ニ裁判所ノ評議ニ付テハ他ノ場合ニ異リ裁判長又ハ裁判所ト雖モ豫備判事又ハ試補ニアラサル者ニハ評議ノ際在場ヲ許可スルコトヲ得サル可シ

ロ　受命判事又ハ受託判事ニ依ル審理ハ公判ノ段階ニ於ケル審理ト雖モ對審即チ公判ニアラス從ツテ之ヲ公開ス可キ旨ノ規定ナシト謂ハサルヲ得ス

四　不當ノ審理公開又ハ密行ノ效果　判決ヲ密行シ又ハ不當ニ審理ヲ密行シタルトキハ常ニ法律ニ違背シタルモノト認ム可キヲ以テ（第二百六十條第八號）控訴審ニ於テ取消ノ事由ト爲ルノミナラス上告審ニ於テハ當然ノ上告理由ト爲リ破毀移送ノ事由ト爲ルモノトス然レトモ審理ノ公開ヲ停止スルヤ否ヤハ審判權者ノ公開停止ノ事由アリヤ否ヤノ事實問題ニ關スル斷定如何ニ依リ決定セラル可キモノナルヲ以テ不當ニ公開ヲ停止セサリシ場合ニ於テハ控訴審ニ於テハ或ハ取消ノ事由タル可シト雖モ上告審ニ於テハ破毀移送其他ノ事由タルコトナシ

第二項　通常ノ審判

第一目　審判開始ノ條件

第一　總說

審判ノ開始ハソノ民事ノ審判ナルト刑事ノ審判ナルト又ソノ裁判所ノ通常裁判所ナルト特別裁判所ナルトニ因リ其體樣ヲ異ニスルノミナラス尙ホ通常ノ審判ナルト特別ノ審判ナルトニ因リテ多少ノ差異アリ然レトモ所謂審判開始ノ條件トシテ說明セムトスルハ通常裁判所ノ判事ノ通常審判開始ノ條件ノミニ關スル而シテ此意義ニ於ケル審判開始ノ條件ト上訴審ノ審判開始ノ條件トニ區別シテ論スルヲ便トス

第二　條件

第一審ノ審判開始ノ條件ハ原則トシテハ公訴ノ提起ニシテ公訴ノ提起權ハ刑訴法ニ於テハ全然檢事代理又ハ檢事ノ職務ヲ行フ者ニ屬ス刑訴法第百八十四條第一項本文ニ云フ裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ

爲ス可カラスト是レ此謂ナリ而シテ同條ニ於テハ辯論ニ因リ附帶ノ犯罪ヲ發見シタル場合ノミニ付キ其例外ヲ認ムト雖モ國法上ノ攻究ニ依レハ其他尙例外トシテ認ム可キ場合少シトセス而シテ豫審判事事件ヲ地方裁判所ノ重罪公判輕罪公判又ハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ以テ豫審ヲ終結シタルトキハ檢事ハ其言渡ノ趣旨ニ從ヒ事件ヲ裁判所ニ送致セサル可カラス然レトモ此場合ニ於テ送致カ公訴ノ提起ニアラサルコトハ刑訴法カ（第二百十二條第二百三十五條）此種ノ裁判ヲ檢事ノ起訴以外ノ公訴受理ノ原因ト爲シタルニ依ルモ亦推知スルニ難カラス

一　地方裁判所檢事カ豫審判事ニ對シ意見書ヲ送致シタル事實（第百四十五條）　地方裁判所檢事カ現行犯罪ニ付特別ノ搜査ヲ爲シタル場合ニ於テ豫審ヲ求ムルノ必要アリト思料シタルトキハ證憑書類ニ其意見書ヲ添ヘ事件ヲ豫審判事ニ送致ス可キモノニシテ此種ノ場合ニ於テハ別ニ豫審ノ請求ヲ爲スコトヲ要セス即チ豫審請求書ヲ提出スルコトヲ要セスシテ意見書ノ送致ヲ以テ豫審ノ請求即チ公訴ノ提起ト同視シ意見書ヲ以テ豫審請求書ト同視ス可キモノトス（例）而シテ地方裁判所檢事カ區裁判所檢事又ハ司法警察官ニ於テ特別ノ

搜査ヲ爲シタル現行犯事件ノ送致ヲ受ケタル場合ニ於テハ一切ノ書類ニ請求書即チ豫審請求書ヲ添付シテ豫審判事ニ送致ス可ク（第百四十八條第一項）地方裁判所檢事カ自ラ現行犯事件ニ付キ特別ノ搜査ヲ爲シタル場合ニ於テモ又區裁判所檢事若クハ司法警察官ニ於テ特別ノ搜査ヲ爲シタル現行犯事件ノ送致ヲ受ケタル場合ニ於テモ直ニ公判ヲ求ムルヲ以テ足ルト思料シタルトキハ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可ク（第百四十九條第一項）區裁判所檢事カ現行犯事件ニ付キ自身特別ノ搜査ヲ爲シタル場合ニ於テハ特別ノ規定ナシト雖モ更ニ區裁判所ニ訴ヲ爲ス可キコト疑ナキニ拘ラス單ニ前顯ノ場合ニ於テノミ意見書ノ送致ヲ以テ何カ故ニ公訴ノ提起ト同視スルヤニ付テハ只治罪法第二百四條ノ遺物ナリト云フノ外特別ノ根據ナキモノヽ如シ

二　豫審判事ノ檢證調書ノ作製（第百四十二條第百四十三條）　刑訴法ハ豫審判事カ檢事ニ先チ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル重罪又ハ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知了シタル場合ニ於テ事件急速ヲ要スルモノナルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス單ニ其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲シ檢證調書ヲ作製シテ豫審處分ヲ爲スコト

ヲ得ヘク此場合ニハ豫審判事カ檢證調書ヲ作製スルト同時ニ公訴ヲ受理シタルモノナル旨ヲ規定ス故ニ此場合ニ於ケル檢證調書ノ作製ハ公訴提起ト同一ノ效力ヲ有スルモノニシテ檢證調書ノ作製ハ即チ審判開始ノ條件タルモノトス而シテ豫審判事必要ト思料シタル豫審處分ヲ爲シタルトキハ速ニ書類ヲ檢事ニ送致ス可キモノナリト雖モ上述ノ如ク檢證調書ノ作製ハ獨立ノ審判開始ノ條件ナルヲ以テ檢事ニ於テ豫審處分ヲ繼續ス可キモノニアラストノ意見ヲ表示シタル場合ニモ固ヨリ其意見ニ羈束セラル可キニアラサルヲ以テ公訴ノ提起アリタル事件ト同樣ノ手續ニ依リ其豫審ヲ終結ス可キモノトス刑訴法ノ明文ニ依レハ或ハ公訴受理前即チ檢證調書ノ作製前ニ於テモ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ルモノヽ如シト雖モ予ハ然ラスト解釋ス

三　審判權者カ證人又ハ鑑定人正當ノ事由ナクシテ其呼出ニ應シ出頭セサルモノト思料シタル事實及ヒ宣誓ヲ肯ンセス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサル事實（第百十五條第百二十六條第百九十條）凡テ此種ノ事實アリタルトキハ審判權者ハ罰金其他ヲ言渡ス裁判ヲ爲ス爲メ又ハ特ニ證人ニ對シテハ勾引ノ裁判ヲ爲ス爲メ書

面上ハ審判ヲ開始スルコトヲ得可シ

四　公判裁判所カ辯論ニ依リ附帶犯罪ヲ覺知シタル事實（第百八十四條第百八十五條）刑訴法ハ公判裁判所カ或ル被告事件ノ辯論ニ依リ其附帶犯罪ヲ覺知シタル場合ニ於テハ訴ヲ受ケサルトキト雖モ其事件ヲ審判スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定ス所謂附帶犯罪トハ刑訴法ノ明定スル特別ノ罪種ニシテ左ノ三樣ノ罪ニ關スルモノトス

甲　公判ニ繫屬スル被告事件ト同時ニ同一ノ場所ニ於テ同一ノ被告人ノ犯シタル他罪若クハ他人ノ犯シタル一罪又ハ數罪　此場合ニ於テ所謂他人ハ刑訴法上ノ共犯タルヲ要セサルハ勿論ナリ

乙　公判ニ繫屬スル事件ノ被告人ト通謀シタル者カ別異ノ日時又ハ場所ニ於テ犯シタル一罪又ハ數罪

丙　公判ニ繫屬スル事件ノ被告人又ハ他人カ其事件ノ基礎タル犯行ヲ幇助シ又ハ其犯行ノ爲メ訴追セラルヽコトヲ免カレ又ハ免カレシムル目的ヲ以テ犯シタル他ノ罪

予ハ此種ノ事實ハ單ニ第一審ノ審判開始ノ條件ナリト信シ上訴裁判所ハ辯論ニ因リテ附帶犯罪ヲ覺知シタル場合ニ於テモ直チニ其審判ヲ開始スルコトヲ得サルモノト信ス是レ治罪法ニ於テハ第二篇刑事裁判所ノ構成及ヒ權限ノ第一章通則中ニ於テ重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シテ訴アリタルトキハ附帶ノ犯罪ニアラスト雖モ上等ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スト規定シ（治罪法第三十八條）タルヲ以テ治罪法ノ解釋トシテハ上訴裁判所ニ於テモ附帶犯罪ヲ覺知シタルトキハ直ニ其審判ヲ開始スルコトヲ得ト云ハサル可カリシト雖モ刑訴法ハ附帶犯罪ニ關スル規定ヲ公判通則中ニ遷シテ單ニ公訴ノ提起ナケレハ審判セストノ原則ニ對スル除外例トヲ爲シタルニ止マリ別ニ管轄規定ノ除外例ト爲シタリト認ム可キ根據ナケレハナリ

五　公判裁判所カ豫審判事ニ對シ僞證被告事件ヲ送致シタル事實（第百九十五條）刑訴法ニ依レハ公判裁判所ニ於テ出廷シタル證人又ハ鑑定人現ニ刑法第二篇第四章第六節ニ所謂僞證ノ罪ヲ犯シタルニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處セラル可キモノト思料シタルトキハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事件ヲ豫審判事ニ送致ス可キモノトス此場合ニ於テモ事件ノ送致ハ公訴ノ提起トヲ同一ノ效力ヲ有スルモノニシテ事件ノ送致ヲ受ケタル豫審判事ハ公訴提起ナキニ拘ラス直ニ審判ヲ開始スルコトヲ得ヘシ而シテ事件ヲ送致スルニ付テハ同時ニ拘引狀ヲ發シテ其證人又ハ鑑定人ヲ拘引シテ其身柄ヲモ亦送致ス可ク尚ホ裁判所書記ノ作製シタル證人又ハ鑑定人ノ供述ノ錄取書ヲ添付ス可キモノトス

第三　上訴審ノ審判開始ノ條件

上訴審ニ於ケル審判ハ常ニ上訴ノ提起即チ抗告、控訴又ハ上告ノ申立ニ依リテ開始スルモノトス而シテ上告審ニ在リテハ申立後更ニ上告趣意書ノ提出アルニアラスハ上告ハ成立セストハ雖モ上告審ノ審判ハ上告趣意書ノ有無ニ拘ハラス開始セラル可キモノトス而シテ其唯一ノ除外例トシテ見ル可キハ刑訴法第二百八十九條第二項ノ場合ナリトス該條項ニ依レハ上告裁判所カ控訴審ノ判決ニ擬律ノ錯誤アリタルニ因リ又ハ控訴裁判所カ違法ニ公訴ヲ受理シタルニ

因リ或ル被告人ノ利益ノ爲メ控訴審ノ判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ同一ノ利益ヲ受ク可キ事由ヲ有スル共同被告人ノ全部ニ對シ控訴審ノ判決ヲ破毀シ相當ノ處分ヲ爲ス可キモノト規定ス故ニ此場合ニ於テハ所謂共同被告人ニ關シテハ自己ノ法定代理人辯護人等ノ上告申立ナキニ拘ハラス上告審ノ審理ヲ開始セラレ且ツ上告審ノ判決ヲ受クルニ至ル可キナリ此同一ノ場合ハ控訴裁判所ニ於テモ尙ホ之ヲ豫想シ得ヘキニ拘ハラス刑訴法ハ單ニ上告裁判所ニ付テノミ此種ノ規定ヲ設ケタリ

第二目　他ノ刑事ノ審判及ヒ刑事ニアラサル審判ニ關スル關係

第一　刑訴法ニ在リテハ上述ノ如ク實體的眞實ノ發見ヲ其目的トス故ニ公訴ノ審判ハ原則トシテハ他ノ審判ノ爲メ何等ノ影響ヲ受ク可キモノニアラス但シ多少ノ除外例アルコトヲ免レス

第二　公訴ノ審判ト他ノ刑事ノ審判トノ關係

公訴ノ審判ハ他ノ刑事ノ審判ト獨立シ毫モ他ノ刑事ノ審判ノ影響ヲ受ケサルコトヲ原則トシ特ニ實質上牽聯セル數個ノ審判ニ付テモ亦然リ故ニ或ハ其趣旨ニ於テ互ニ撞着セル數個ノ裁判確定スルニ至ル可シ刑訴法ハ公判裁判所カ附帶犯罪ニ付豫審ヲ要スト思料シタル場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得ヘキ旨（第百八十四條、第二項）及ヒ公判裁判所カ證人又ハ鑑定人ヲ所謂僞證ノ犯人トシテ事件ヲ豫審判事ニ送致シタル場合ニ於テハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得ヘキ旨（第百九十五條、第三項）ヲ規定ス故ニ此等ノ場合ニ於テハ其事件ノ審判ハ他ノ公訴ノ審判即チ附帶犯罪又ハ所謂僞證罪ノ犯人ニ對スル公訴ノ審判ノ爲メ影響ヲ受ク可ク或意義ニ於タル除外例ノ爲スモノナリト雖モ此場合ニ於テモ他ノ審判ヲ以テ豫判事件ナリトハ云フコトヲ得ス所謂豫判事件トハ或ル公訴事件ノ審判ニ付テノ前提タル問題ニ關スル公訴事件ヲ云フモノニシテ豫判事件ノ審判ハ當然本案事件ノ審判ヲ羈束シ本案事件ヲ審判スルニ付テハ少クトモ其前提問題ノミハ豫判事件ノ審判ノ結果ト同一ノ認定ヲ爲サヽル可カラス而シテ上述ノ場合カ所謂豫判事件ノ場合ニアラサルコトハ明文上公判裁判所ニ本案ノ辯論ヲ停止スルト否トノ選擇

權アルノミナラス常ニ辯論ヲ停止スヘキモノトスルモ公訴裁判所ハ他ノ公訴審判ニ何等羈束セラルヘキニアラサルコトニ因リ明白ナリ

而シテ上述シタル原則ハ特別裁判所ニ於ケル刑事ノ審判ニ付テモ亦其適用ヲ有スル故ニ通常裁判所ノ裁判ト特別裁判所ノ裁判トカ其趣旨ニ於テ抵觸スルニ拘ハラス共ニ其效力ヲ有スルコトモ亦絶無ニアラス

第三　公訴ノ審判ト刑事ニアラサル審判トノ關係

公訴ノ審判ト民事商事特許其他ノ審判トノ關係ニ付キテモ公訴ノ審判ト他ノ刑事ノ審判トノ關係ト同一ノ斷定ヲ下スコトヲ得ヘシ但シ前ニ證明ノ目的物ナル題下ニ說明シタル如ク創設的裁斷ノミハ公訴ノ審判ヲ羈束スルヲ以テ創設的裁斷アル可キ事項ニ關スル公訴ニ在リテハ其裁斷アルトキマテ其審判ヲ停止セサル可カラス而シテ刑訴法（第三百一條、第三百六號）ニ判決ノ憑據ト爲リタル民事上ノ判決他ノ確定判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタル場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ト規定スルハ單ニ上述ノ創設的民事上ノ判決カ他ノ確定判決ニ依リ廢棄若クハ破毀セラレタル場合ノ意義ニ解ス可キモノトス

第三目　第一審ノ審判

第一　豫審ノ審判

一　總說

甲　豫審ノ目的　吾刑訴法ニ於テハ豫審ノ目的ハ公判ニ付ス可キ被告事件ナリヤ否ヤノ審判ヲ爲スコトニ在リト謂ハサルヲ得ス換言スレハ公判ニ付ス可キ被告事件ナリヤ否ヤノ決定ヲ爲スニ必要ナル證明ヲ集取シ集取シタル證明ニ因リ公判ニ付ス可キ被告事件ナリヤ否ヤノ決定ヲ爲スコトニ在リトス蓋シ豫審ノ目的ハ所謂豫審ノ審判ニ關スル法制ノ如何ニ因リ自ラ異ラサルヲ得ス而シテ各國刑訴法ハ豫審ノ審判ニ關シ各特種ノ法制ヲ認メタリ獨乙ニ於テハ豫審ノ審判ニ關シテハ其第百八十八條ニ於テ豫審ハ公判手續ヲ開始ス可キヤ又ハ被告人ヲ免訴ス可ヤニ關スル裁判ニ爲スニ付キ必要ナル限度以外ニ之ヲ開張ス可カラス公判ノ際消失ノ虞アル證據又ハ被告人ノ辯護準備ノ爲メ集取ヲ必要ナリト思料シタル證據ハ豫審中ト雖モ亦之ヲ集取ス可シト規定シ其第百九十五條、一項ニ於テ豫審判

事豫審ノ目的ヲ達シタリト思料シタルトキハ記錄ヲ檢事局ニ送致シ其申立ヲ爲サシムルモノトスト規定シ而シテ其第百九十六條ニ於テ豫審アリタルトキハ裁判所ハ公判手續ヲ開始ス可キヤ又ハ被告人ヲ免訴ス可キヤ又ハ假ニ手續ヲ停止ス可キヤヲ裁判ス。檢事局ハ此目的ノ爲メ其申立ト同時ニ記錄ヲ裁判所ニ提出スルモノトス云々ト規定ス佛蘭西ニ於テハ種々ノ沿革アリト雖モ結局重罪ノ豫審ニ付テハ控訴院ニ於ケル起訴局カ豫審判事ノ作製シタル書類ニ依リ終結シ輕罪ノ豫審ニ付テハ豫審判事單獨ニ之ヲ終結スルモノト爲ス吾刑訴法ハ佛蘭西ノ法制ヲ摸倣シタルモノナルカ重罪ノ豫審ニ付テモ豫審判事之ヲ終結ス可キコトニ變更シタリ而シテ此等ノ法制中豫審判事以外ノ者ヲシテ公判ニ付ス可キヤ否ヤノ決定ヲ爲サシム可キモノニ在リテハ豫審ノ目的ハ單ニ公判ニ付ス可キ事件ナリヤ否ヤヲ決定スルニ付キ必要ナル證明ヲ集取スルコトノミニ在リ反之豫審判事カ更ニ公判ニ付ス可キヤ否ヤノ決定ヲ爲ス可キモノニ在リテハ豫審ノ目的ハ尚別ニ公判ニ付ス可キ被告事件ナリヤ否ヤノ決定ヲ爲スコトニ

モ在リト謂ハサル可カラスシテ而カモ此種ノ法制ニ在リテハ公判ニ付ス可キヤ否ヤノ決定ヲ爲スコト主タル目的ニシテ決定ヲ爲スニ付キ必要ナル證明ヲ集取スルハ寧ロ從タル目的ナリト謂ハサルヲ得サル可シ

乙 豫審ト搜查トノ關係　豫審ノ審判ト搜查處分トハ共ニ公判ノ準備タル可キ處分ニシテ又共ニ證明集取ノ處分ナリト雖モ豫審ニ在リテハ公判ニ付ス可キ被告事件ナリヤ否ヤノ決定ヲ爲スコトヲ目的トシ搜查ニ在リテハ公訴ヲ提起ス可キ被告事件即チ豫審若クハ公判ノ請求ヲ爲ス可キ被告事件ナリヤ否ヤノ決定ヲ爲スヲ目的トスル點ニ於テ異ナリ豫審ノ審判ハ公訴提起後ノ證明ノ集取ニシテ搜查處分ハ公訴提起前ノ證明ノ集取ナル點ニ於テ異ナリ又豫審ノ審判者ハ判事ニシテ搜查處分權者ハ檢事司法警察官ナル點ニ於テ異ナルモノトス

丙 豫審ノ審判開始ノ條件　豫審ノ審判モ固ヨリ第一審ノ審判ノ一部ナリ故ニ其審判ノ開始ニ付テハ必ス上述シタル第一審ノ審判開始ノ條件アルコトヲ要スルヤ論ヲ俟タスト雖モ其條件ニ付テハ其說明ヲ再セス爰ニ特

ニ豫審ノ審判開始ノ條件トシテ論ス可キハ公訴ノ提起其他第一審ノ審判開始ノ條件ノ存在シタルニ因リ審判中ニ屬スル事件ニ付キ豫審ノ審判ヲ開始ス可キ場合ニ關スルモノトス

刑訴法二四一ニ依レハ公判裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル被告事件ヲ重罪被告事件ナリト思料シタル場合又ハ檢事ニ於テ更ニ之ヲ重罪被告事件トシテ訴追スル旨ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ其被告事件未タ豫審ヲ經サルモノナルトキハ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可キ旨ヲ規定ス又同法第二百六十三條ニ依レハ控訴ノ審判ヲ爲ス地方裁判所ニ於テ原裁判所ノ管轄違ナルコトヲ認メタル場合ニ於テ自ラ其事件ニ付キ第一審ノ審判ヲ爲ス權限ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ付キ第一審ノ審判ヲ爲スコトヲ得ヘク此場合ニ於テ被告事件重罪事件ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ未タ豫審ヲ經サル事件ニ付テハ豫審判事ニ送致スル決定ヲ爲ス可キ旨ヲ規定ス然ラハ此場合ニ於ケル豫審判事ニ被告人ヲ送付スル決定モ亦豫審ノ審判開始ノ一條件ナリト謂ハサル可カラス

二 審判手續　豫審ノ目的既ニ上述シタル如キモノナルヲ以テ豫審ノ審判ノ手續ノ何タルヤモ亦解シ難カラス即チ豫審ニ於テハ捜索差押其他ノ方法ニ依リ物的證據方法ヲ準備シ檢證又ハ朗讀ニ依リ物的證明ヲ集取シ其他ノ方法ニ依リ人的證據方法ヲ準備シ呼出拘引拘留其他ノ方法ニ依リ人的證明ヲ集取シ訊問又ハ對質ニ依リテ人的證明ヲ集取シ其因リテ得タル證明ニ根據シテ公判ニ付ス可キヤ否ヤノ裁判ヲ爲スモノトス而シテ豫審ノ審判ハ上述ノ如ク糺問手續ニ屬スルヲ以テ被告人ノ所在不明ニシテ之ヲ訊問スルコト能ハサル場合ニ於テモ尚ホ此種ノ裁判ニ依リ豫審ヲ終結スルコトヲ得ルモノトス

豫審判事被告事件ニ付キ豫審終結ノ決定ヲ爲スニ熟セリト思料シタルトキ即チ被告事件其管轄ニ屬セサルモノ若クハ他ノ取調ヲ要スルコトナキモノト思料シタルトキハ先ツ豫審終結ノ處分ニ付テノ檢事ノ意見ヲ聽ク爲メ訴訟記錄ヲ檢事ニ送致ス可ク檢事ハ成ル可クハ三日内ニ其意見書ヲ添付シテ之ヲ豫審判事ニ還付ス可キモノトス（第百六十一條）然レトモ若シ檢事ニ於テ豫審ノ審理不十分ナリト思料シタルトキハ其不十分ナリト思料ス可キ事項ヲ指定

シ更ニ取調ヲ請求スルコトヲ得ヘシ但シ豫審判事ニ於テ其取調ノ請求ニ應セサルトキハ二十四時間内ニ意見書ヲ添付シテ訴訟記錄ヲ豫審判事ニ還付スル可キモノトス

豫審判事檢事ヨリ訴訟記錄ノ還付ヲ受ケタルトキハ檢事ノ意見ニ關セス後述ノ區別ニ從ヒ所謂豫審終結ノ決定ヲ爲ス可キモノトス

三　終結ノ決定　豫審終結ノ決定ハ管轄違ノ決定、免訴ノ決定及ヒ公判ニ付スル決定ナリトス

甲　管轄違ノ豫審終結決定　豫審判事カ被告事件其管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ決定ヲ以テ管轄違ナル旨、被告事件ヲ檢事ニ交付スル旨及ヒ若シ被告人ヲ拘留ス可キモノト思料シタル場合ニ於テ勾留狀ヲ發布セラレタルモノナルトキハ其勾留狀ヲ存スル旨ノ裁判ヲ爲ス可シ而シテ被告人ヲ勾留ス可キモノト思料シタル場合ニ於テ當時勾留セサルモノナルトキハ新ニ勾留狀ヲ發シテ之ヲ勾留ス可キモノトス（第百六十四條）

乙　免訴ノ豫審終結決定　豫審判事カ被告事件ニ付キ左ニ記載シタル事由アリト思料シタルトキハ決定ヲ以テ被告人ヲ免訴スル旨及ヒ拘留セラルヽ被告人ニ關シテハ之ヲ放免スル旨ノ裁判ヲ爲ス可キモノトス（第百六十五條）

イ　被告事件罪ト爲ル可キ行爲ニアラストノ證明十分ナルコト

ロ　被告事件罪ト爲ル可キ行爲ナリトノ證明十分ナラサルコト

ハ　公訴權消滅シタル事件又ハ公訴ハ受理ス可カラサル事件ナリトノ證明十分ナルコト

(a)公訴權ノ消滅シタル事件ト上述ノ如ク親告ノ拋棄又ハ取下アリタル事件、犯行後ノ法律ニ依リ刑ノ廢止アリタル事件、訴追時效ヲ經タル事件、確定判決ヲ經タル事件、訴訟手續ニ關スル大赦アリタル事件、法律上刑ノ全部ヲ免除シタル事件ヲ云フ但被告人ノ死亡ハ公訴權消滅ノ事由ナリト雖モ被告人ナケレハ訴訟手續消滅ス可ク從ツテ審判ナルモノアリ得ヘカラサルヲ以テ被告人死亡シタルトキハ豫審ノ審判ハ終結ノ決定アルコトヲ要セス死去ト同時ニ其儘終局スルモノトス(b)公訴受理ス可カラサル事件トハ公訴提起ノ手續其規定ニ背キタル事件ヲ云フ要之免訴ノ決定ヲ爲ス可キ

事由ハ第百六十五條ニ於テ制限的ニ列記セラレタリト解スルハ誤謬ナリ」

丙　區裁判所ニ移ス豫審終結ノ決定　豫審判事カ區裁判所ニ移ス終結決定ヲ爲ス可キ事由ニ二アリ其事由ノ如何ニ因リテ各多少其手續ヲ異ニス

イ　被告事件違警罪ナリトノ證明十分ナルコト　此場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタルモノナルトキハ常ニ同一ノ決定ヲ以テ之ヲ釋放スル旨ノ裁判ヲ爲ス可シ

ロ　被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナリトノ證明十分ナルコト　此場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタルモノナルトキハ同一ノ決定ヲ以テ其罰金ノ刑ヲ科セラル可キモノト思料シタルトキハ常ニ之ヲ釋放スル旨ノ裁判ヲ爲ス可クソノ禁錮ノ刑ニ該ル可キモノト思料ス可キトキハ或ハ其保釋ノ請求ヲ許可シ若クハ之ヲ責付スルコトヲ得ヘク被告人拘留ヲ受ケサルモノナルトキハ新ニ拘留狀ヲ發シ之ヲ拘留スルコトヲ得ヘシ而シテ刑訴法ハ裁判所構成法第十六條第二號ニ記載シタル輕罪ト云フヲ以テ改正ニ依ル裁判所構成法第十六條ニ依レハ多少ノ變更アリタルモノヽ如シト雖モ予ハ立法ノ精神ハ然ラサルモノト信ス

丁　公判ニ付スル豫審終結ノ決定　公判ニ付スル豫審終結決定ニハ輕罪公判ニ付スルモノト重罪公判ニ付スルモノトノ區別アリ然レトモ裁判所ノ構成ハソノ輕罪事件ナルト重罪事件ナルトニ依リ豫審手續ヲ異ニスルノミニシテ何等其構成ヲ異ニスルコトナシ

イ　輕罪公判ニ付スル終結決定　豫審判事カ被告事件地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナリトノ證明十分ナリト思料シタルトキハ決定ヲ以テ所屬地方裁判所ノ輕罪公判ニ付スル旨ノ裁判ヲ爲シ其被告人拘留ヲ受ケタルモノナル場合ト否ラサル場合ト及ヒ其被告人罰金ノ刑ニ該ル可キモノナル場合ト禁錮ノ刑ニ該ル可キモノナル場合トヲ區別シ區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ニ付キ區裁判所ニ移ス決定ヲ爲ス場合ニ於ケルト同一ノ手續ヲ爲ス可シ

ロ　重罪公判ニ付スル終結決定　豫審判事カ被告事件地方裁判所ニ屬スル重罪ナリトノ證明十分ナリト思料シタルトキハ決定ヲ以テ其所屬地方裁判所ノ重罪公判ニ付スル旨及ヒ被告人拘留ヲ受ケタルモノナル場合ニ於テ保釋ヲ許可セラレ又ハ責付セラレタル場合ニ於テハ保釋又ハ責付ヲ取消ス可キ旨ノ裁判ヲ爲ス可ク若シ被告人拘留ヲ受ケサルモノナル場合ニ於テハ新ニ拘留狀ヲ發シ之ヲ拘留ス可キモノトス

公判ニ付スル決定確定シタルトキハ被告事件ヲ公判ニ付ス可キ效力ヲ生ス可ク從ツテ檢事ハ被告事件ヲ公判ニ送致セサル可カラサルハ論ナシ大審院判例ニ依レハ公判ニ付スル決定アリタル事件ニ付キ其決定ノ確定前檢事カ被告事件ヲ公判ニ送致シタル場合ニ於テモ被告人公判ニ於テ異議ヲ述ヘサリシトキハ公判ノ審判ハ違法ニアラスト爲ス如シト雖モ確定前ノ決定ニ此種ノ效力ヲ認ムルハ不理ナルノミナラス被告人公判ニ於テ異議ヲ述ヘタル場合ニ於ケル被告事件ノ取扱方ヨリ論スレハ實際ニ於テモ亦妥當ナル見解ナリトハ云フコトヲ得サル如シ但シ此場合ハ之ヲ決定ノ確定後被告事件ノ送致アリタル場合ト混同ス可カラス後述ノ場合ニ於テハ其決定ニ付キ違法アリトスルモ確定力ハ常ニ公判ニ付セサル可カラサル效力ヲ生モシム可ク後日其確定シタル決定ニ存スル違法ヲ云爲シテ以テ審判ヲ非難スルコトヲ得サレハナリ

而シテ決定ニ付ス可キ理由及ヒ決定ノ告知ニ付キテハ上述シタル裁判及ヒ裁判ノ告知ニ付テノ說明ヲ參照ス可シ但シ重罪公判ニ付スル場合ニ於テ被告人ニ送達スル決定ニハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨及ヒ抗告期間ヲ記載ス可キモノトシ若シ其記載ナキトキハ更ニ適式ノ送達ヲ爲ス迄抗告期間ハ進行セサルモノトス而シテ此場合ニ於テ刑訴法カ特ニ被告人ニ送達ス可キ決定ト規定スルコトハ特ニ注意ヲ要ス可シ

第三項　公判ノ審判

第一　總說

第一審公判ノ審判ニ付テハ其區裁判所ノ審判ニ關スルモノト地方裁判所ノ第一審ニ關スルモノトノ區別アリ然レトモ刑訴法第二百三十六條ニ依レハ前章

ノ規定即地方裁判所公判ニ關スル規定ハ此章即地方裁判所公判ト題スル章ニ別段ノ定メナキモノニ限リ地方裁判所ノ輕罪重罪ノ公判ニ準用スト規定スルヲ以テ予ハ左ニ公判ノ審判ヲ概說シ區裁判所又ハ地方裁判所公判ニ特別ナル審判手續ニ付テノミ特ニ之ヲ分說スルニ止メントス

第二　公判開始ノ條件

公判開始ノ條件ニ付テモ上述ノ審判開始ノ條件トシテ攻究スヘキハ公訴ノ提起スルコトヲ得ヘシ而シテ特ニ公判開始ノ條件トシテ攻究スヘキハ公訴ノ提起其他第一審ノ審判開始ノ條件ノ存在シタルニ因リ審判中ニ屬スル事件ニ付キ公判ノ審判ヲ開始スヘキ場合ニ關スルモノトス

一　刑訴法第二百十二條第二號及第二百三十五條ニ依レハ第一審裁判所ノ公判ハ其區裁判所ニ關スルト又ハ地方裁判所ニ關スルトヲ區別セス豫審判事又ハ上級裁判所ノ事件ヲ移ス裁判ニ依リテモ亦開始スルモノトス所謂豫審判事ノ事件ヲ移ス裁判トハ公判ニ移ス終結決定又ハ區裁裁所ニ移ス終結決定ヲ云ヒ所謂上級裁判所ノ事件ヲ移ス裁判トハ控訴審ニ於テ原判決ヲ取消シ被告事件ヲ原裁判所ニ差戻シタル判決（第二百六十條第二項）豫審終結決定ニ對スル抗告審ニ於テ原決定ヲ取消シ更ニ被告事件ヲ公判ニ付シタル決定又ハ裁判所ニ移シタル決定及第一審ノ審判開始ノ條件トシテ六及七ニ述ヘタル判決ヲ云フ或ハ管轄指定ノ決定管轄移轉ノ決定モ亦所謂上級裁判所ノ事件ヲ移ス裁判ナリト云フト雖モ管轄ヲ指定シ又ハ管轄ヲ移轉スル裁判ハ之ヲ事件ヲ移ス裁判トハ云フコトヲ得サルヤ論ヲ俟タス

二　刑訴法第二百三十二條、第二百三十三條及ヒ第二百三十四條、第二百四十七條、第二百四十八條ニ依レハ闕席判決ニ對シテ故障ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ公判ヲ開始シ故障ハ之ヲ許スヘキヤ否ヤ又ハ故障期間内ニ申立テタルモノナルヤ否ヤヲ調査スヘク故障ヲ違法ナリト認メタルトキハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ即チ開始シタル公判ヲ繼續シテ審判スヘキモノトス

第三　公判廷ニ於ケル審判ノ準備ニ屬スル審判

一　總說

公判ノ審判ト雖モ其全部ヲ公判廷ニ於テ爲スコトヲ得サルハ勿論ニシテ公

判廷ニ於ケル審判ヲ爲スニハ却テ種々ノ準備ヲナスコトヲ要ス而シテ準備ニ屬スル審判ニ付テモ區裁判所ニ於ケル公判廷ニ於ケル審判ノ準備ナルト又ハ地方裁判所ノ公判廷ニ於ケル審判ノ準備ナルトニ依リ多少其手續ヲ異ニスル所ナキニアラス

二　公判期日ノ指定及變更　公判期日トハ要スルニ公判廷ニ於ケル審判ヲ爲スヘキ期日ヲ云フ刑訴法ハ第二百十四條第二百三十六條ニ於テ區裁判所又ハ地方裁判所ノ公判ニ於ケル被告人ノ呼出狀ニハ其出頭ノ日時即チ公判期日ヲ記載スヘキモノトス故ニ呼出狀ノ發付前公判期日ノ指定アルヘキコト疑ナシ而シテ刑訴法ハ第二百十五條第二百三十六條ニ於テ呼出狀ノ送達ト第一回ノ公判期日トノ間ニハ少クトモ二日ノ猶豫ヲ存スヘキ旨ヲ規定ス故ニ公判期日ヲ指定スルニ付テハ其指定シタル期日ヨリ少クトモ二日前ニ於テ呼出狀ヲ送達セサルヘカラス而シテ此種ノ猶豫期間ハ要スルニ被告人ノ辯護準備ノ爲メニノミ存スルモノナルヲ以テ若シ被告人ニ於テ異議ナシトスレハ此猶豫ヲ與ヘサルモ違法ニアラスト信ス然レトモ刑訴法ハ其指定ヲ

ナスヘキ者ニ關シ何等ノ規定ヲモ設ケス故ニ多少ノ異論ナキニアラスト雖モ予ハ何等ノ特別規定ナキ以上ハ裁判所ニ於テ之ヲ指定スヘク裁判長ニ於テ之ヲ指定スヘキモノニ非スト信ス（第二百三十一條參照）而シテ指定シタル期日ノ變更ニ付テモ亦同シ

三　訟訴關係人ノ呼出　檢事ハ公判廷ヲ構成スル一員ナルノミナラス獨立ノ官吏ナルヲ以テ概ネ裁判所ニ於テ之ニ命令スルノ權ナク從テ檢事ニ對シテハ裁判所ニ於テ之ヲ呼出スコトヲ得ス裁判所ハ檢事ニ對シテハ單ニ公判期日ヲ通知スヘキモノトス然レトモ檢事以外ノ訴訟關係人ハ裁判所ニ於テ之ヲ呼出サヽルヘカラス公判期日ニ訴訟關係人ヲ呼出スヘキコトニ付テハ刑訴法ニ直接ノ明文規定ナシト雖モ公判ノ性質上當然ノ事例ナルノミナラス例ヘハ第二百三十一條第二百五十七條、特ニ被告人呼出ニ付テハ第二百十三條等其趣旨ヲ推知スヘキ規定少シトセス而シテ其呼出狀ノ形式ニ付テハ前呼出ニ付キ述ヘタル所ニ屬ス

四　證據方法ノ準備　證據方法ノ準備トハ人的證據方法及物的證據方法ニ關

ス而シテ人的證據方法ハ呼出ニ依リテ之ヲ準備ス人的證據方法中被告人ノ呼出ニ付キ說明シタルトコロニシテ證人鑑定人ノ呼出ニ付テハ前訴訟關係人ノ呼出ノ準備トシテ說明シタルトコロナリ而シテ刑訴法第百九十二條ニ依レハ檢事被告人及民事原告人ノ請求ニヨリ呼出ス證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ相手方ニ送達スヘシト規定ス然ラハ檢事被告人等ハ公判開廷前書面ヲ以テ證人ノ喚問ヲ請求スルコトヲ得ヘク裁判所ハ其請求ニ付キ決定ヲ以テ之ヲ許否スヘキモノトセルカ如シ而シテ若シ其請求ヲ許容シタルトキハ公判期日ニ之ヲ呼出サヽルヘカラス物的證據方法ハ其文書タルト又ハ檢證ノ目的物タルトヲ問ハス公判期日ニ於テ之ヲ公判廷ニ存在セシムル樣準備セサルヘカラス而シテ予ハ公判前ノ搜索差押ハ之ヲ許容セサル法意ナリト解ス是レ刑訴法カ特ニ公判前ノ證人喚問ノ決定ヲ爲スコトヲ得ル旨及公判前ニ檢證ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定スルヲ以テ特別ノ明文ナキ處分ハ刑訴法ノ禁止シタルモノト解スルヲ妥當ナリトスレハナリ

五　公判外ニ於ケル審判　所謂公判外トハ公判廷外ニ於ケル審判ニシテ公判廷ニ於ケル審判ノ準備ニ屬スル審判タルモノヲ謂フ

(一)區裁判所ニ於ケル公判前ノ檢證(二)裁判所ノ公判外ニ於ケル證明集取及(三)受命判事及受託判事ニ依ル證明ノ集取ナリトス

甲　區裁判所ニ於ケル公判前ノ檢證　區裁判所ニ於ケル第一回公判前ノ檢證モ亦公判廷ニ於ケル審判ノ準備ニ屬スル處分ナリ是レ區裁判所ニ於テハ第二百十六條ニ依リ豫審ヲ經サル被告事件ニシテ急速ヲ要スルモノナルコトヲ條件トシテ公判ニ取掛ル前檢事其他關係人ヲ立會ハシムルコトヲ要セスシテ檢證ヲナスコトヲ得ヘケレハナリ而シテ第二百三十八條ハ公判開廷後ノ檢證ニ關スル規定ニシテ地方裁判所ニ於テ公判前ノ檢證ヲ許サヽルコトハ注意ヲ要ス

乙　裁判所ノ公判外ニ於ケル證明ノ集取　公判ハ必ス裁判所ノ法廷ニ於テ之ヲ爲ス然レトモ裁判所ハ公判ノ段階ニ於テモ尙公判手續ノ準備トシテ公判外ニ於テ證明ノ集取ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ裁判所ノ公判外ニ於

ケル證明ノ集取ナルヲ以テ合議體ノ裁判所ニ於テハ必ス裁判所ヲ構成スル判事ノ全員カ出向シテ檢證又ハ訊問ヲ爲サヽルヘカラス又公判廷ニ於ケル審判ノ準備ニ屬スル審判ナルヲ以テ其證明集取ノ結果ヲ記載シタル調書ハ更ニ公判廷ニ於テ之ヲ朗讀スルニアラスハ適法ニ其證據力ヲ有セス

丙 受命判事又ハ受託判事ニ依ル證明ノ集取　區裁判所ハ單獨裁判所ナルヲ以テ受命判事ナルモノアルヘキナシ地方裁判所ニ於テハ第百九十一條ニ依リ證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ裁判所ニ決定ヲ以テ部員一名ニ命シ其所在ニ就キ之ヲ訊問セシムルコトヲ得ヘク第二百三十八條ニ依リ裁判所必要ナリトスルトキハ訴訟關係人ノ請求又ハ職權ニ依リ決定ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢ヲナシ報告ヲナサシムルコトヲ得ヘシ又裁判所ニ於テハ其區裁判所タルト又ハ地方裁判所タルトヲ區別セス臨檢捜索差押ハ第百十二條ノ類推ニ依リ決定ヲ以テ區裁判所判事ニ證人訊問ハ第百三十二條及第百九十條ニ依リ或ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得ヘシ凡テ此等ノ場合ニ於ケル證明ノ集取ハ公判廷ノ審判ノ準備ニ屬スル審判ナルヲ以テ一方ニ於テ公判廷ニ於ケル如ク集取ノ際當事者其他ノ在廷ヲ必要トセス一方ニ於テハ其集取ノ結果ヲ記載シタル調書ヲ更ニ公判ニ於テ之ヲ朗讀スルニアラスハ適法ニ證據力ヲ有セス而シテ受命判事及受託判事ノ權限ニ關スル刑訴法ノ規定ハ極メテ不備ナリ刑訴法ハ受命判事ニ關シテハ第二百四十一條ニ於テ地方裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスル場合又ハ檢事ヨリ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立テタル場合ニ於テ其事件ノ取調ヲ命シタル受命判事ニ付キ又第二百六十四條ニ於テ控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスル場合又ハ其事件ヲ重罪トシテ控訴アリタル場合ニ於テ事件ノ取調ヲ命シタル受命判事ニ付キ共ニ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ト規定スルニ止マリ受託判事ニ關シテハ第百三十三條ニ於テ第百十八條第百十九第及第百二十六條ニ揭ケタル證人ニ對スル豫審判事

ノ權ハ受託判事ニモ屬スト規定スルニ止マリ多大ノ疑ヲ生スト雖モ類推ニ依リ總テ訊問檢證又ハ其準備タル處分ヲ爲スニ付キ豫審判事ト同一ノ權限ヲ有スルモノノ如シ

六　辯護準備　上述シタル所謂必要辯護ノ場合ニ於テハ必ス被告人ニ官選又ハ私選ノ辯護人アルコトヲ要ス故ニ裁判所ハ此場合ニ於テ常ニ被告人ニ私選辯護人アルヤ否ヤヲ調査シ私選辯護人ナキトキハ辯護人ヲ官選セサルヘカラス而シテ所謂必要辯護ノ場合中第百七十九條ノ二ニ規定シタル場合ハ區裁判所及地方裁判所ニ於テ其適用ヲ見ルヘク重罪事件ナル場合ハ自ラ單ニ地方裁判所ニ於テノミ其適用ヲ見ルヘシ前者ニ付テハ辯護人ヲ付スル旨ノ決定ヲナスト否トハ裁判所ノ自由ニシテ其決定ヲナシタル後ニアラサレハ即チ私選辯護人ノ無キコトヲ確定シタル後ニアラサレハ此種ノ決定ヲ爲スコトナキヲ以テ特ニ辯護人ノ有無ヲ審査スヘキ必要ヲ生セス後者ニ付テハ重罪事件ナルコトヲ條件トシテ必ス辯護人アルコトヲ必要トスルヲ以テ特ニ其私選辯護人ノ有無ヲ審査スル必要ヲ生スス是レ第二百三十七條アル所以ニシテ同條ニ於テハ重罪事件ニ付テハ開廷前裁判所又ハ受命判事カ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ且ツ辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フヘク其訊問ニ付テハ特ニ訊問調書ヲ作製スヘキモノトス

第四　公判廷ニ於ケル審判

一　總說

甲　公判廷ノ構成　公判廷ニハ必ス裁判所書記檢事及特定ノ場合ヲ除ク外被告人幷ニ特定ノ場合ノミニ於テハ尚ホ辯護人ノ在廷スルヲ要スルモノトス

イ　裁判所及裁判所書記ノ在廷　裁判所タル一人ノ判事及裁判所ヲ構成スヘキ各判事引續キ常ニ同一事件ノ公判廷ニ在廷スルコトヲ要ス是レ口頭辯論主義ノ當然ノ結果ナルノミナラス裁判所構成法第百十九條及刑訴法第百七十六條ヨリ自ラ明白ナルヘキ事項ニ屬ス故ニ若シ其判事又ハ判事中ノ一人若クハ數人其後ノ公判廷ニ出廷スルヲ得サルニ至リタルトキハ裁判所構成法第百二十條ニ依ル補充判事カ之ニ代リタル場

合ヲ除ク外常ニ其審判ヲ更新シテ更ニ審判ニ着手セサルヘカラス而シテ或ハ判決ハ同一ノ判事ニ依リナサルヽコトヲ要スレトモ判決ノ言渡ノ如キハ畢竟事實上ノ作用タルニ過キサルヲ以テ必スシモ同一判事ニ依リ言渡サルヽコトヲ要セスト云フ者アリ即チ判決言渡ノミヲ爲スヘキ公判期日ニアリテハ必スシモ同一ノ判事其公判廷ニ出席スルコトヲ要セスト云フ者アリト雖モ立法論トシテハ姑ク之ヲ論セス特別ノ明文ナキ刑訴法上ノ解釋論トシテ予ハ寧ロ反對ノ見解ヲ正ト信シ是レ判決言渡ノミヲ爲スト雖モ尚同一事件ノ公判廷タルコトヲ否定スルコトヲ得サレハナリ

廣義ノ裁判所ニハ裁判所書記ヲ包含スト雖モ裁判所ニ在廷ヲ要スルハ刑訴法第百七十六條ノ要求スルトコロナリ但裁判所構成法第八十五條第二項ニ依リ數人ノ裁判所書記ノ在廷スルコトヲ妨ケサルノミナラス又口頭辯論主義ノ適用ナキヲ以テ必スシモ同一裁判所書記カ引續キ在廷スルコトヲ必要トセス

ロ　檢事ノ在廷　檢事ノ在廷ハ刑訴法第百七十六條ノ要求スル所ナリト雖モ數人ノ檢事ノ在廷スルコトヲ妨ケサルノミナラス檢事同一體且ツ不可分主義ノ適用トシテ固ヨリ同一檢事カ引續キ在廷スルコトヲ要セス

ハ　特定ノ場合ヲ除ク外被告人ノ在廷　被告人公判廷ニ在廷スル權利及義務ヲ有スルコトヲ原則トス

天　被告人ハ公判廷ニ在廷スル權利義務ヲ有スルヲ以テ出廷センコトヲ欲シタリトスレハ如何ナル場合ニ於テモ特ニ拘禁中ニ係ル場合ト雖モ尚ホ出廷ヲ拒マルヽコトナシ但例外トシテ左ノ場合ニ於テハ其在廷ヲ禁止スルコトヲ得ヘシ

子　審判ヲ妨害シ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シタル場合（刑訴法第百八十二條第二項裁構法第百九條第百十條）此場合ニ於テハ裁判所ハ被告人ノ退廷又ハ拘留ヲ命スルコトヲ得ヘシ但辯論二日ニ亘ルトキハ更ニ之ヲ出廷セシムヘキモノトス

丑　證人又ハ共同被告人其面前ニ於テ充分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サル場合（第百九十七條）此場合ニ於テモ裁判所ハ其證人又ハ共同被告人ノ供述中被告人ノ退廷ヲ命スルコトヲ得ヘシ但其供述後裁判長ハ被告人ヲ入廷セシメ其供述ヲ告知スヘキモノトス

地　被告人ハ公判廷ニ在廷スル義務ヲ有スルヲ以テ公判廷ニ出廷シ且ツ審判ノ終了スルトキマテ在廷スヘキコトヲ原則トス故ニ不當ニ出廷又ハ在廷セサル被告人ニ對シテハ拘引狀又ハ拘留狀ヲ發シテ其在廷ヲ強制シ又ハ闕席判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ但法律上其在廷ノ義務ヲ免除スル場合ナキニアラス即チ罰金拘留又ハ科料ニ該ルヘキ被告事件ニ在リテハ被告人ハ其代人ヲ公判廷ニ在廷セシムル權利ヲ有ス（第二百二十六條第一項第二百十四條第二項）然レトモ此種ノ權利ハ當事者タル資格ニ於ケルヲ以テ裁判所ニ於テ被告人ナル證據方法ヲ利用シテ證明ヲ集取スルコトヲ必要ナリト思料シタルトキハ此場合ニ於テモ尚被告人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

二　特定ノ場合ニ於ケル辯護人ノ出廷　辯護人ハ公判廷ニ在廷スルコトヲ要スヘキ場合ハ所謂必要辯護ノ場合ナリトス而シテ其他ノ場合ニアリテハ辯護人ハ公判期日ニ之ヲ呼出スコトヲ要スルノミニシテ必スシモ其在廷ヲ必要トセス所謂呼出ハ送達受領ノ權限ナキ假住所ノ支配者ニ對シ送達狀ノ送達ヲ爲スモ無效ナリトナス見解アリト雖モ予ハ然ラスト信ス近時ノ大審院判例モ亦然リ

甲　審判

イ　審判ノ更新　審判更新ノ手續ハ審判ヲ更新スル旨ヲ宣言シテ更ニ通常ノ審判ノ順序及審判ノ方法ニ從ヒテ審判ヲ爲スニ在リ而シテ審判更新ノ效力ハ予ハ從前其事件ニ付キ爲シタル訴訟行爲ハ總テ其效力ヲ失フモノト信ス故ニ從前其事件ニ付キ決定特ニ檢證ヲ爲ス旨證人及鑑定人ノ訊問ヲ爲ス旨又受命判事若クハ受託判事ヲシテ此種ノ處分ヲ爲サシムル旨ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テモ審判ヲ更新シタルトキハ更ニ其決定ヲ爲スニアラサレハ其效力ナシ然レトモ大審院近時ノ判例ニ依

レハ從前爲シタル決定ノミニ付キ除外例ヲ認メ上述ノ決定ハ更新前之ヲ爲シタル場合ニ於テモ更新後其決定ヲ執行シ檢證若クハ訊問ヲ爲シ又ハ爲サシムルコトヲ得ヘキモノト爲シタリ

ロ 審判ノ順序及其方法　審判ノ順序及其方法ヲ說明スルニ付テハ先ツ審判ノ指揮及其進行竝ニ法廷警察ニ付キ說明ヲ爲サヽルヲ得ス審判ノ指揮及其進行（裁判所構成法第百四條）竝ニ法廷警察ハ（裁判所構成法第百八條乃至第百十三條）區裁判所ニ在リテハ審判ヲ爲ス判事ニ屬スト雖モ地方裁判所ニアリテハ原則トシテハ裁判長ニ屬シ例外トシテ訴訟關係人ヨリ異議ノ申立アリタルトキ又ハ重大ナル指揮事務ニ關スルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其當否ヲ裁判スヘキモノトス而シテ此種ノ權限者ノ指揮進行及法廷警察ハ其效力ヲ總テノ訴訟關係人特ニ檢事並ニ傍聽人ニ及ホスモノトス所謂指揮事務トシテハ上述ノ如ク人的證據方法ノ訊問其他凡テ訴訟行爲ヲ訴訟ノ目的ニ適應セシムル事務ヲ云ヒ進行事務トハ上述ノ如ク訴訟ヲ判決ヲ爲ス程度マテ進行セシムル事務ヲ云ヒ法廷警察事務トハ公判廷ノ秩序ヲ維持スル事務ニシテ訴訟關係人タル傍聽人ニ退廷ヲ命スルコト退廷ヲ命セラレタル者ヲ釋放シ又ハ之ニ罰金若クハ拘留ヲ科スルコト其他ノ處分ヲ包含スルモノトス（裁判所ノ管掌事務參照）而シテ審理ノ順序及其方法ニ關シテハ左ノ如ク區別シテ說明スルコトヲ便宜トス但左ニ通常ノ場合ニ於ケル審判ノ順序ニ從ヒ記載スト雖モ或ハ同時ニ事實ノ訊問ト證據調ヲ爲ス場合アリ或ハ辯論終結後更ニ審判再開ノ宣言ヲ爲シ又ハ爲サヽルトキハ必ス被告人ノ意見ヲ問ヒ且ツ其利益ノ證據ヲ差出スコトヲ

子 被告人出廷シタル場合ニ於テハ其身上ニ關スル問答　身上ニ關スル問答ハ其氏名年齡身分職業住所出生ノ地ニ關スル而シテ其問答ノ必要ハ主トシテ人違ナキヤ否ヤニ根據スルモノヽ如シ（第二百十八條第一項）

丑 檢事ノ口頭ニ依ル被告事件ノ陳述（第二百十八條第二項）

寅 被告人出廷シタル場合ニ於テハ被告事件ニ付テノ被告人ノ訊問

卯 證據調（第二百十九條第二百九十八條）　一個ノ證據方法ニ付キ證據調ヲ爲シタルトキハ必ス被告人ノ意見ヲ問ヒ且ツ其利益ノ證據ヲ差出スコトヲ

得ヘキ旨ノ告知ヲ爲サヽルヘカラス但實際ニ於テハ必要ナル數個ノ證據方法ニ付キ證據調ヲ爲シタル後ニ被告人ニ對シ此種ノ告知ヲ爲スモノヽ如シ

辰　當事者ノ辯論（第二百二十條）　當事者ノ辯論ニ付テハ檢事先ツ事實及法律適用ニ關スル意見ヲ陳述シ被告人及其辯護人ハ其答辯トシテ反對ノ意見及新ナル意見ヲ陳述シ尙各自相互ニ意見ノ陳述ヲ爲スコトヲ得但最終ニ意見ヲ陳述スル權限ハ常ニ被告人又ハ其辯護人ニ歸スルモノトス

巳　判決ノ告知（第二百二十二條乃至第二百二十六條第二百二十八條）　判決ノ告知ハ公判廷ニ於ケル審判中ハ常ニ身體ヲ拘束セラルヽコトナシ但シ守卒ヲ置クコトヲ妨ケサルコト勿論ナリ（第百七十七條）

ハ　對席審判及闕席審判

子　對席審判　對席審判ニ付テハ狹義ノ對席審判ト準對席審判トヲ區別スルコトヲ得狹義ノ對席審判トハ被告人ノ在廷スル審判ヲ云ヒ刑訴法上ノ常態ニシテ特ニ說明ヲ要セス但被告人出頭シタルトキハ其辯論ヲ爲シタルト又ハ其辯論ヲ爲スコトヲ肯セサルトヲ區別セス常ニ對席審判ヲ爲スヘキコト勿論ナリ（第百八十一條第一項）　準對席審判トハ被告人ノ在廷セサル審判ニシテ對席判決ニ準セラルヽモノヲ云ヒ更ニ被告人ノ代人ノ在廷スル審判ト被告人及被告人ノ代人ノ在廷セサル審判ニ區別スルコトヲ得而シテ檢事ノ在廷ハ上述ノ如ク公判廷構成ノ要件ナルヲ以テ苟モ公判廷ニ於ケル審判ナリトスレハ檢事ノ在廷セサル場合ヲ生セス

A　被告人ノ代人ノ在廷スル準對席審判　刑訴法第二百十四條第一項第三百二十六條ノ趣旨ニ依レハ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ニ付キ被告人カ其代人ヲ出頭セシメタルトキハ對席審判ヲ爲スモノナルコト明白ニシテ此場合ニ於テハ其代人ハ被告人ト同一視シテ對席判決ヲ爲スモノトス

B　被告人及被告人ノ代人ノ在廷セサル準對席審判　此種ノ準對席

審判ヲ爲スニ付テモ三樣ノ場合ヲ區別スルコトヲ得ヘシ

1　被告人裁判所構成法第百九條ニ依リ退廷ヲ命セラレ又ハ拘留セラレタル場合ニ於テハ其公判期日ニ限リ準對席審判ヲ爲スコトヲ得ヘシ但其後ノ公判期日ニハ更ニ被告人ヲ出頭セシムヘキモノトス（第百八十二條第二項）

2　裁判所ニ於テ證人又ハ共同被告人カ被告人ノ面前ニ於テ充分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト認メタル場合ニ於テハ其供述中其被告人ヲ退廷セシメ準對席審判ヲ爲スコトヲ得但證人ノ供述ノ終了後被告人ヲ入廷セシメ裁判長ニ於テ之ニ其供述ヲ通知スルコトヲ要ス（第百九十七條）

丑　闕席審判　罰金ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ニ付キ被告人又ハ其代人公判期日ニ出廷セサルトキ又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ被告事件ニ付被告人自身ニ豫審終結決定書若クハ公判ノ呼出狀ヲ送達シタル場合又ハ此種ノ送達ヲ爲スコトヲ得サルコトヲ條件トシテ裁判所ノ定メタル猶豫期間内ニ被告人出頭セサルトキハ闕席判決ヲ爲スヘキ旨ノ告知書ヲ被告人ノ親屬又ハ其在籍地若クハ最後ノ住居地ノ市町村長ニ送達シ又ハ其在籍地若クハ最後ノ住居地不明ナルトキハ上述ノ告知書ヲ少クトモ一ケ月間裁判所ノ揭示場ニ貼付公示シタル場合ニ於テ被告人公判期日ニ出廷セサルトキハ闕席審判ヲ爲スヘキモノトス（第二百二十六條第二百二十七條）闕席審判ノ手續ハ單ニ被告人ニ對スル訊問ヲ缺クコトヲ得ル點ニ於テノミ對席審判ノ手續ト異ナルノミニシテ其他ノ點ニ付テハ全然對席審判ノ手續ニ同シク辯護人モ亦出頭スルコトヲ得而シテ闕席判決ノ何タルヤハ後述スヘシト雖モ闕席者即チ被告人ハ刑ヲ科シタル闕席判決ニ對シ故障又ハ直ニ控訴ヲ申立ツルコトヲ得而シテ控訴ニ付テハ之ヲ後述スヘシ故障トハ闕席判決ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者カ更ニ對席審判ヲ受クルノ目的ヲ以テ闕席判決ヲ爲シタル裁判所ニ對シ爲ス攻擊方法ニシテ上訴ニ非ラス故障期間ハ罰金以下ノ刑ヲ科シタル闕席判決ニ付テハ被告人自身其判決ノ送達

ヲ受ケ又ハ其判決ノ執行即チ逮捕狀ニ依リ逮捕シ又ハ自身出頭シタル被告人ニ對スル其判決ノ告知ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知了シタル後三日トス（第二百十九條二）但所謂原狀回復ノ申立理由アルモノト認ムヘキトキ及關席判決ニ故障ヲ爲スコト得ヘキ旨及故障期間ノ記載ナキトキハ此限ニアラス（第二百三十四條第二百四十七條第二百四十八條）

故障ノ申立ハ書面ニ依リテ之ヲ爲シ關席判決ヲ爲シタル裁判所ニ之ヲ申立ツヘキモノトス（第二百十條）

故障ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ其旨ヲ檢事ニ通知シ通常ノ手續ニ從ヒ更ニ對席審判又ハ關席審判ヲ爲シ故障ノ申立其規定即チ申立ノ理由ニ關スル規定ニ違フコトナキヤヲ調査シ若シ其規定ニ違ヒタルモノト認メタルトキハ直ニ故障ヲ棄却スル判決ヲ爲スヘク其規定ニ違フコトナキモノト認メタルトキハ故障ノ申立ヲ受理シ或ハ對席審判ヲ爲シ或ハ第二回ノ關席審判ヲ爲スヘシ而シテ審理後故障ノ申立其規定ニ違ヒタルモ

ノト認メタルトキハ更ニ故障棄却ノ判決ヲ爲スコトヲ妨ケス又第二回ノ關席判決ニ對シテハ更ニ故障ヲ申述フルコトヲ得ス

寅　判決及其告知

A　總說　對席審判ノ場合ナルト又ハ關席審判ノ場合ナルトヲ區別セス裁判所ハ凡テ判決ヲ以テ被告事件ニ對スル意見ヲ表示セサルヘカラス而シテ其判決ノ內容ニハ左ノ如キ區別アリト雖モ何レノ場合ニ於テモ沒收ニ係ラサル差押物ハ請求ノ有無ニ關セス其判決ヲ以テ所有者又ハ差出人ニ還付スル言渡ヲ爲スヘキモノトス尙訴訟費用ニ關スル言渡ニ付テハ後述スヘシ而シテ判決原本ニハ其判決ヲ爲シタル裁判所年月日其事件ノ言後ニ干與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載シ判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘキモノトス而シテ尙刑訴法第二十一條ノ適用アルコトハ注意ヲ要ス

1　管轄違ノ判決又ハ管轄違ノ申立却下ノ判決　裁判所ニ於テ被告事件其管轄ニ屬セサルモノト認メタルトキハ區裁判所ノ管轄

ニ屬スル場合ニ於テモ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡尙ホ被告人拘留ヲ受ケタル場合ニ於テ拘留ノ必要ナシト認メタルトキハ放免ノ言渡、又被告人未タ拘留ヲ受ケサル場合ニ於テ之ヲ拘留スル必要アリト認メタルトキハ新ニ之ヲ拘留スル旨ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス（第二百十二條二）而シテ管轄違ノ判決ハ公訴不受理ノ判決ト同シク何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘク上述シタル審理順序其他ノ如何ニ關スルコトナシ而シテ管轄違ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所其申立ヲ理由ナキモノト認メタルトキハ管轄違申立却下ノ中間判決ヲ爲スヘキモノトス（第百八十六條）

2　免訴ノ判決　裁判所ニ於テ被告事件公訴ノ時效ニ罹リタルモノ確定判決ヲ經タルモノ法律ニ於テ其刑ヲ免除シタルモノ控訴ノ提起其規定ヲ違フモノ其他訴訟條件欠缺セルモノト認メタルトキ即チ公訴受理スヘカラサルモノト認メタルトキハ免訴ノ言

渡ヲ爲スヘキモノトス（第二百十四條二）

3　公訴不受理ノ判決　又ハ公訴不受理ノ申立却下ノ判決　免訴ノ判決ヲ爲スヘキ理由アルトキハ裁判所ハ第百八十六條ニ依リ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ判決ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ訴訟法ハ此種ノ判決ハ特ニ之ヲ公訴不受理ノ判決ト指稱シ免訴ノ判決トハ謂ハス要スルニ裁判所ハ公訴受理スヘカラサル被告事件ニ付テハ審判終了後爲ス判決ハ之ヲ免訴ノ判決ナリトシ審判終了前ニ爲ス判決ナリトスレハ之ヲ公訴不受理ノ判決ナリトス而シテ公訴不受理ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所其申立ヲ理由ナキモノト認メタルトキハ公訴不受理ノ申立却下ノ中間判決ヲ爲スヘキモノトス（第百八十六條第二百二十四條）

4　無罪ノ判決　裁判所ニ於テ犯行ノ證明十分ナラサル被告事件又ハ罪トナラサル被告事件ナリト認メタルトキハ無罪ノ判決ヲ爲スヘシ（第二百十四條二）而シテ豫審終結ノ際上述ノ事由アルトキハ單

ニ免訴ノ決定ヲ爲スニ止ルコトハ注意ヲ要ス

5 刑ニ處スル判決　裁判所ニ於テ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニシテ且ツ公訴受理スヘキモノト認メタル場合ニ於テ事件刑ヲ科スヘキ罪ヲ構成スルコトノ證明十分ナリト認メタルトキハ刑法其他刑罰法令ニ從ヒテ刑ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス（第二百三條）（第二百二條）

B 對席判決　對席判決ハ當事者ヨリ控訴ノ申立アリタル場合ニアラサレハ其控訴期間ノ滿了ニ因リテ確定ス而シテ特ニ刑ヲ科シタル判決ヲ告知シタルトキハ裁判長ハ尙被告人ニ對シ自費ヲ以テ判決ノ正本謄本又ハ證本ヲ求ムルコトヲ得ル旨其判決ニ對シテハ控訴ヲ爲シ得ヘキ旨及控訴期間ヲ告知ス可キモノトス（第二百六條第二百七條）

C 闕席審判ヲ爲シタル場合ニ於テモ其判決ハ檢事ニ對シテハ對席判決ニシテ單ニ被告人ニ對シテノミ闕席判決ナリ闕席判決ハ訴訟關係人ノ請求アルトキハ送達ニ依リ之ヲ被告人ニ告知セサルヘカラス（第二百二條）而シテ闕席判決ニ對シテハ被告人其故障期間內ニ故障又ハ控訴ノ申立ヲ爲サヽルトキハ其期間ノ滿了ト共ニ確定ス而シテ刑ヲ科スル闕席判決ニハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ旨及故障期間ヲ記載スヘシ但控訴ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ旨ノ記載ヲ要セス

ニ 公判手續ニ對スル異議ノ審判　公判ニ於ケル審判ハ上述ノ如ク裁判長之ヲ指揮スト雖モ其審判手續ニ關シ當事者異議アルトキハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得異議ノ申立ニ付キテハ裁判長所屬ノ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ直ニ決定ヲ以テ或ハ其申立ヲ却下シ或ハ其申立ヲ理由アリト爲スヘシ（第百九條）

ホ 公判調書及其效用　公判廷ニ於ケル審判ニ付テハ裁判所書記公判始末書ト稱スル調書ヲ作製セサルヘカラス而シテ公判始末書ニハ

子 審判ヲ公開シタル事實又ハ審判ヲ密行シタル事實及其事由

丑 被告人ノ訊問及其供述

寅　證人鑑定人ノ供述及鑑定人カ宣誓シタル事實又ハ宣誓セサリシ事實及其事由

卯　證拠物證據物ニ付テハ通常檢第何號證第何號證其他ノ表示ヲ付シテ以テ相互ニ之ヲ區別スル事實及其申立ニ付テノ訴訟關係人ノ意見及異議ノ申立ニ付テノ決定

辰　異議ノ申立アリタル事實及其申立ニ付テノ訴訟關係人ノ意見及異議ノ申立ニ付テノ決定

巳　審判ノ順序及被告人カ最終供述ヲ爲シタル事實ノ有無

午　其他一切ノ手續即チ被告人拘束ノ有無審判數日ニ亘ルトキハ同一ノ判事出席シタル事實ノ有無補充判事判事ニ代ハリタルトキハ其旨及其他ノ手續

ヲ記載シ尙審判ヲ爲シタル裁判所公判期日及裁判長、陪席判事審判ニ干與シタル檢事裁判所書記ノ官氏名ヲ記載スヘキモノトシ(第二百八條第二百九條)尙刑訴法第二十條第二十一條ノ適用アリ而シテ公判始末書ハ判決言渡後三日內ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判書記之ニ署名捺印スヘシ裁判長公判始末書ノ記載ニ付反對ノ見解ヲ有スルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得ヘク又ハ其見解ヲ始末書ノ紙尾ニ記載スヘシ(第二百十條第二項)而シテ刑訴法第二百十條第二項ハ裁判所構成法第九十一條第三項ノ趣意ト相容レサルモノヽ如シト雖モ予ハ上述ノ如ク裁判長ハ此二樣ノ行爲ヲ爲スノ選擇ヲ有スルモノト解ス

公判始末書ノ效用ハ其書證タルニアリ而シテ公判ノ手續ニ付キテハ公判始末書ナル文書以外ノ證據方法ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得サルヲ以テ其效用ハ殊ニ多大ナリトス

其他ノ規定

(1)訴訟關係人ハ自費ヲ以テ判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ請求スルコトヲ得ヘク殊ニ上訴ヲ爲ス爲メ其請求ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ハ二十四時間內ニ之ヲ下付スヘキモノトス但此期間ハ職務期間ナルコト勿論ナリ(2)公判始末書ハ訴訟記錄ト共ニ第一審裁判所ニ於テ之ヲ保存スヘシ但訴訟記錄ハ上訴アリタル場合ニ於テハ之ヲ上訴裁判

所ニ送付シ上訴裁判所ハ上訴ノ言渡後上訴審ニ於ケル判決謄本ト共ニ之ヲ第一審裁判所ニ返還スヘシ（第二百四十九條）而シテ刑訴法ハ判決原本ニ付テモ亦之ヲ訴訟記錄ニ添付スヘキ旨ヲ規定ス則チ上訴完結前ニ於テハ訴訟記錄ニ之ヲ添付ズヘキハ勿論ナリト雖モ判決原本及訴訟記錄ノ保存期間ヲ異ニスル結果トシテ判決原本ノミハ早晩之ヲ分離シ其謄本ヲ添付セサルヘカラス

乙　區裁判所ノ公判廷ニ於ケル審判　區裁判所ノ公判廷ニ於ケル審判ニ特別ナル審判手續ハ被告人又ハ其代人ノ自白アリタル場合ニ於テハ檢事及民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證據方法ニ付キ證明ヲ集取スルコトヲ要セサルコトニ在リ（第百十九條第二項）

丙　地方裁判所ノ公判廷ニ於ケル審判　地方裁判所ノ公判廷ニ於ケル審判ニ特別ナル審判手續ハ左ノ三事項ニ關ス

イ　被告人自白シタル場合ニ於テモ尚他ノ證據方法ニ付キ證明ヲ集取セサルヘカラス（第二百十九條）

ロ　被告事件　其土地管轄內ニ在ル區裁判所ノ事物管轄ニ屬スルモノト認メタル場合ニ於テモ第一審ノ判決ヲ爲スヘキモノトス（第二百四十條第一項）

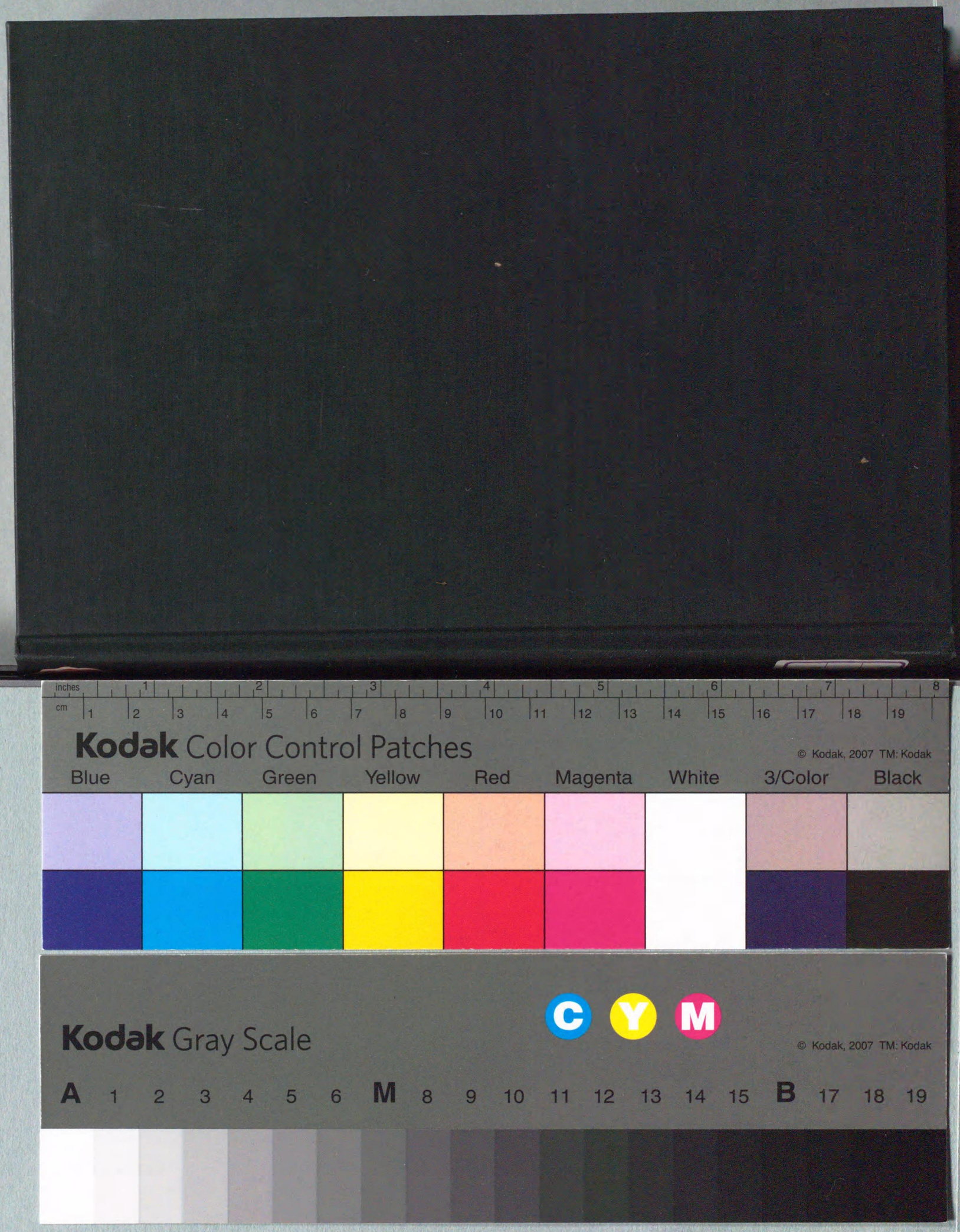
ハ　輕罪トシテ公判ヲ開始シタル被告事件ニ付キ重罪被告事件ナリトノ心證ヲ得タル場合又ハ檢事ニ於テ更ニ重罪被告事件トシテ訴追スル旨ノ申立アリタル場合ニ於テハ被告人拘留ヲ受ケサルトキハ拘留狀ヲ發シテ之ヲ拘留シ決定ヲ以テ其事件ヲ豫審判事ニ送付スヘシ但被告事件既ニ豫審ヲ經タルモノナルトキハ決定ヲ以テ公判廷ニ於ケル審判ヲ停止シ更ニ重罪被告事件トシテ審判スヘキ旨及ヒ受命判事ヲシテ事件ノ取調ヲ爲サシムル旨ヲ言渡スヘキモノトス

講述者曰ハク本學年期間短縮ノ結果ト公務多忙ノ結果トニ因リ講義完結スルニ至ラサリシハ極メテ遺憾トスルトコロナリ

刑事訴訟法（完結）

W327.6
TA88
1(1~3)

最高裁判所図書館
000128340


inches
cm
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak Gray Scale
C
Y
M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19